

225新

後54

普通學講習會著

小學

國定地理歷史表解

大阪 田中宗榮堂發行

小學 522

地理研究會著作

改訂 增補 小學地理附圖

(大形) 尋常科用一冊
高等科用一冊
特價各廿七錢
郵送料各六錢

文部省で出来た小學地理附圖は、極めて簡單にしてありますから、教科書にあることより外の事を見やうとすれば、たちまち差支ます「ア、も少し詳ければよいなあ」といふ人が非常に多い。また實際地圖はどの家にも是非なくてはならぬ本です。そこで此地圖は(一)本を大形として大いに詳しく(二)百數十個の名勝寫眞板を入れて、居ながら各地の風景を見(三)最も新しい諸種の統計表を添てありますから、眞に地理を研究せうとする諸君は元より、中等の學校に入ものも是非備置べき最良の地圖であります。そこで文部省の地理附圖をお買になつた人でも、なほ此地圖を用意せられたならば、勉學上の便益も、すこぶる大なることと信じます。

普通學講習會著

尋常科
第六學年用

國定 小學地理歴史表解

44. 3. 7

大阪 田中宋榮堂發行

普通學講習會著作

國定小學理科附圖

尋常五學年年用
尋常六學年年用
定價各拾五錢
郵送料各四錢

諸君がお習ひなさる理科書の繪は、みな墨繪ではありませんか。墨繪では其物の本當の有様を見るのに、不便であることは分りきつたことでありま

す。そこで本當のもの様に彩色したものがあることがあつたならば、どれだけ面白うて、どれだけ便利で、どんなに利益を得られるでせうか。

この小學理科附圖は、一々實物について丁寧に研究し、それが大層美しい彩色繪としてありますから、理科を習ふ上に、便利で面白いのはもとより

圖畫のけいこの手本としてもよい程です。それですから、墨繪のものとは迎も比較物になりません。又學業に熱心な諸君は、裏にある筆記欄に、習

うたことを書入で、どれだけ知識が儲になるかをためして御覽なさい。

尋常小學地理表解

尋常小學地理表解
普通學講習會著作

府縣	所管	管轄區域	主要なる産物
德島縣	德島市	阿波の全部	糖・藍・煙草・阿波縮
香川縣	高松市	讃岐の全部	砂糖・藍・紙・蠟・銅
愛媛縣	松山市	伊豫の全部	鯨節・珊瑚・鯨・紙・炭
高知縣	高知市	土佐の全部	石炭・米・博多織・小倉織・緋
福岡縣	福岡市	筑前・筑後・豊前・豊後の四北部	有田焼・米・麥・石炭
佐賀縣	佐賀市	肥前・肥後	煙草・石炭・甘藷・魚類
長崎縣	長崎市	肥前・肥後・豊前・豊後	馬・麥・粟・材木・魚類
熊本縣	熊本市	肥前・肥後	疊表・鹿茸・椎茸・硫黄
大分縣	大分市	日向の全部	材木・椎茸・木炭・麻・銅
宮崎縣	宮崎市	日向の全部	金・甘藷・砂糖・煙草・馬・緋・錫
鹿兒島縣	鹿兒島市	大隅・薩摩	甘藷・山藍・紬・泡盛・芭蕉布
沖繩縣	那覇市	琉球諸島全部	

○尋常地理 六學年年用

四國地方

位置

中國地方の南方にあり。四國島と附近の小島とよりなる。
 東||紀伊水道を隔て、紀伊半島。南||太平洋—土佐灣あり。
 西||豊豫海峽を隔て、九州島。北||瀬戸内海を隔て中國。

一山岳

四國山脈
 西南より中央を東北につらぬく。
 東北にて二派に分る。南||阿波の中央。
 北||讃岐の南境。
 高山||劔山(七千四百尺、四國第一)。石槌山(六千九百尺)。

地勢

二河流・平野

河流
 四國山脈に發し、東・北・南の三方に流る。
 吉野川||四國第一の大河—五十六里。
 仁淀川(二十九里)。那賀川(廿八里)。渡川(廿五里)。
 全島に山多く、平野少し。
 平野
 吉野川の下流地方の平野は藍(ア)の産地。
 讃岐の海岸地方にも少しく平野あり。

方

産業

吉野川下流地方の藍。東北部地方の麥稈眞田。中部より西の紙土佐海の水産物。瀬戸内海沿岸の鹽。別子(シベツ)の銅。
 鐵道少し||讃岐線・徳島線・伊豫鐵道あるのみ||不便。
 海上交通||瀬戸内海沿岸には良港多く、交通便利なり。
 徳島縣(阿波)。香川縣(讃岐)。愛媛縣(伊豫)。高知縣(土佐)。

交通

鐵道少し||讃岐線・徳島線・伊豫鐵道あるのみ||不便。
 海上交通||瀬戸内海沿岸には良港多く、交通便利なり。

區分

徳島縣(阿波)。香川縣(讃岐)。愛媛縣(伊豫)。高知縣(土佐)。

字解

四國島コクダウ 附近フキン 隔てヘマ 相望むアヒシム 高峰カウホウ 峯ツビ 概ねオホム 諸川シヨセン 著るアラハ
 藍アヲ 麥稈眞田ムギワラサナダ 以西イキ 鯨カツチ 海濱カイヒン 製鹽業セイエンゲツ 普アマ 陸上の交通リクジョウノカウツウ 沿岸エンガン 相接しアヒセツ 占めシ 相背アヒソム 連るツラナ

○尋常地理 六學年用

管轄 阿波國全部。

位置 四國島の東部の中央を占む。

地勢 四國山脈は、西の境にて二派に分る。南 國の中部。北 讃岐との國境。

土地西北に高く、東南に向つて次第に低くなる。

淡路との間のせまき海。

幅一里—大鳴門・小鳴門あり。

海岸 東北に鳴門海峡あり。一時間に七八海里の速さにて流る。

船行すこぶるあぶなし。

徳

平野 吉野川の流域地方より徳島近傍へかけて少しく平野あり。この平野には、多く藍を産し、又煙草を栽培す。

島

高山 高山 劔山 高さ七千四百尺、四國第一の高山なり。

縣

河流 吉野川(四國三郎) 長さ五十六里—河口は多くに分る。那賀川(ガハ)。

都邑 徳島市 人口五萬六千、縣廳の所在地。四國にては第一の大都會なり。撫養(ヤム)—齋田鹽(シイダ)の取引地にて名高し。

鐵道 徳島市より西の方船戸(フナト)まで 徳島線。

産物 齋田鹽。藍(日本一の産地)。煙草。阿波縮。絨織。魚類も多し。

名所 祖谷の蔓橋 最大なるものは長さ三十三間、幅四尺、高さ三十間。鳴門海峡のうづまき。この他小なるもの多し。

字解

流域 以南 占む 所在地 往來 頻繁 附近

○尋常地理 六學年用

管轄 讃岐國全部。我が國にて最も小さき縣なり。

位置 四國島の東北部 徳島縣の北にあり。

地勢 南境に四國山脈の支派なる讃岐山脈あり。一帯に北に向つて傾き、海岸にせまき平地あり。

山岳 雲邊寺山。矢筈山。象頭山(金刀比羅宮あり)。

海岸 小出入多く、よき港少からず。

東北 播磨灘(ハリマ)。西 三崎ありて燧灘(ヒウチ)をいただく。

香川

高松市 人口四萬三千、縣廳の所在地。瀬戸内海の要津。東の海中に屋島を望み、景色よろし。市の南に栗林公園あり、日本三公園に劣らぬ名園。

縣都邑

丸龜市 人口二萬五千、東北の阪出は盛なる製鹽地。

善通寺 第十一師團司令部あり。弘法大師(コウボウ)の誕生(ヤウジ)したる地なり。

多度津 瀬戸内海の要津、金刀比羅宮參拜者の上陸地。

琴平 金刀比羅宮あり。大己貴命(オホナムチノミコト)を祀る。崇徳上皇(ストクジヤウクワウ)を祀る。

鐵道 高松より丸龜・多度津を経て琴平に通ず 讃岐線。

産物 甘蔗 砂糖の製造。鹽。藍。石材。

名所 栗林公園。金刀比羅宮。屋島(源平の古戰場)。

接し 要津 屋島 望み 控ふ

字解

製鹽業 へるしこと 第十一師團司令部

尋常地理 六學年用

管轄 伊豫國全部。

位置 四國の西北部一帯の地方 香川縣の西南。

西南より東北に四國山脈わたりて、一帯の高地をなす。

中央に支脈を出して、高繩半島となる。

東部地方 北にかたむく。

西部地方 西北にかたむく。

石槌山 高さ六千九百尺、四國第二の高山なり。

高繩山。鬼ヶ城山。吉森山。

河流 西南部に肱川あり、やゝ大なり。

高繩半島 北端に楯取岬あり 東 燧灘。

佐田岬 十里 九州の地藏岬と相對して 豊豫海峽。

佐田岬より南には、小出入きはめて多し。

媛 愛

海岸

地勢

山岳

河流

縣

都邑

鐵道

產物

名所

松山市 人口四萬二千、縣廳の所在地。近傍に道後あり。伊豫鐵道の中心地。伊豫紵(スリガ)の產地。

新居濱(ニホ) 別子銅山の工場あり。今治・三津濱・宇和島など、皆縣下の要津なり。

伊豫鐵道 松山の附近にあるのみ。松山を中心とし、高濱・三津濱・古町・道後・郡中などに通ず。

砂糖・紙・伊豫紵・蠟(ハゼの實よりつくる)。別子の銅 足尾につぎて、日本第二の大銅山なり。

アンチモニー 我國にては、この國に産するのみ 今は少し。名所 道後の温泉 松山の北半里ばかりの所にあり。

字解

西端 佐田岬 豊豫海峽 挟む 中部 近傍 道後温泉 別子銅山

○尋常地理 六學年用

管轄 土佐國全部。

位置 四國の南部一帯の地方 愛媛縣の東南にあり。

地勢

四國山脈は、西南より北東へ、國境一帯に連る。南方に向つて急に傾斜し、平野と稱すべき地なし。

山岳 御在所山。 矢筈山。 白髮山。 瓶ヶ森山。

三大河

仁淀川 二十九里。 物部川。 渡川 二十五里、四萬十川ともいふ。

海岸

東 室戸岬。 西 足摺岬。 この間一大灣 土佐灣。 小出入あり、良港なし。地震のため陥没せし處。

高知

縣

都邑

高知市 人口三萬八千、縣廳の所在地。土地大に低し。
浦戸 浦戸灣の入口にあり。縣下唯一の港なれども、良港ならず。この他、高岡・中村などの小都會あり。

交通

鐵道なく、四國山脈にて北方との交通を妨げられ、海岸には良港なく、土地南方にかたよりたれば、交通の便悪し。

産物

水産物を主とす 鰹節・珊瑚・鯨など殊に名高し。土佐半紙・土佐炭の名も高く、材木も少からず。

名所 高知城の公園。 龍串の奇景。

字解

背 背きになつて 横たはる 中部一般に 製紙業 鰹節 製造

○尋常地理 六學年用

九州地方

位置

九州島と其の屬島(九州)及び琉球列島よりなる。
本州・四國の西南にあり。

地勢

一山岳・三大山脈

北部山脈 北端を東西に走る。
南部山脈 中央部を東西に走る。
火山脈 南北に走り阿蘇山・霧島山あり

中央より東西に流るゝもの多し。

二河流・平野

筑後川 九州第一の大河(三十里)。
球磨川・大淀川・川内川などあり。

土地の高低 中央部 肥後・日向の國境最も高く、
四方に低くなる。

平野

筑紫平野 筑後川の下流地方。
肥後平野 白川の下流地方 肥後米産地。

東北部 國東半島(サキ)ありて、南に別府灣(ワツツ)をいだけ、
西北部 博多灣(ハカタ)、唐津灣(ワラツ)、伊萬里灣(イバリ)あり。

三海岸

西部 彼杵半島(ツノギ)と大村灣。島原半島と有明海。
天草島と八代海(ハツロ)・天草灘(アマク)。

南部 大隅・薩摩の二半島は鹿兒島灣を抱く。
島嶼 琉球列島・五島・壹岐・對馬を重ねるものとす。

産業

農業 平野の米。西部より南部の甘藷。畜産 中部以南の馬。
鑛産 北部の石炭・南部の金。水産 西部・南部の鱈・鰯。

交通

鐵道 門司より鹿兒島に至る九州線を幹線とし、長崎線・唐津線
筑豊線(ウセソ)・豊州線(ホウシ)など、多くの支線あり。

區分

福岡縣(フクオカ) 佐賀縣(サガ) 長崎縣(ナガサキ) 熊本縣(クマモト)。
大分縣(オホイト) 宮崎縣(ミヤザキ) 鹿兒島縣(カガシマ) 沖繩縣(オキナワ)。

字解

屬島 琉球列島 走る 高峰 霧島山 概ね 大淀川 著し
肥沃 島嶼 突出 抱く 散布 甘藷 栽培 飼養 頗る 流域
總産額 過半 鰻 北端 門司 幹線 支線

○尋常地理 六學年用

管轄 筑前・筑後・豊前の西北部。

位置 九州の北部。西北 日本海。東北 瀬戸内海。西南 有明海。

地勢 中部高く、四地方に分る

- 一 玄海灘斜面 (ゲンカイナ)
- 二 遠賀川流域 (オンガガハ)
- 三 周防灘斜面 (スハウナダ)
- 四 筑紫平野 (ツクシ)

平野 筑紫平野 有名なる農産地 筑後米の産出地。

河流

遠賀川 (オンガ) 北に流る。上流地方は、石炭の大産出地。
筑後川 (筑紫二郎) 南に流る。長さ三十里、幅五町。

福岡

都邑

福岡市 人口七萬九千、縣廳・九州帝國大學あり。
東 博多、西 福岡の二部よりなる。開港場。
門司市 人口五萬六千。九州の最北端。下關海峡の口。
九州鐵道の起點。開港場にて、石炭の輸出多し。
久留米市 (クシュ) 人口三萬六千、第十八師團司令部をおく。

岡

縣

鐵道

小倉市 人口三萬、第十二師團司令部あり。
若松 石炭の輸出地。近傍の八幡 (ヤハ) に大製鐵所あり。
九州線 門司より小倉・福岡・久留米・熊本・鹿兒島に通ず。
豊州線 (ホウセン) 小倉より大分に通ず (工事中)。
筑豊線 (チクホ) 若松より、其の南方石炭産地の各地に通ず。

産物

石炭 日本全産出高の過半 (ハツ) を出す。
筑後米・博多織・小倉織・久留米絨・蠟・博多人形。
太宰府天満宮。香椎宮 (神功皇后を祀る)。
箱崎八幡宮。
芥屋の大門。米島半島 福岡の西にて、元の兵と戦ひし地。

名所

所 福岡醫科大學 名産 臨める 門司 咽喉 輸出
小倉 官設製鐵所 久留米絨 三池炭坑

字解

○尋常地理 六學年用

管轄 肥前の東北部。

位置 福岡縣の西につらなる。

地勢 東北 福岡縣との境に一帶の山脈あり。
西南 長崎縣との境にも一帶の山脈あり。
中央 一帯の丘陵(ヨウリ)となり、東松浦半島となる。
東南部 一帯の平野にて、筑紫平野の一部をなす。

山岳 背振山。虚空藏山などいちぢるし。

河流 筑後川は筑後との國境を流れ、松浦川は北に流る。

佐 海岸

北海岸 東松浦半島 〔東に唐津灣をいたく。西に伊萬里(リマ)灣をいたく。〕

南海岸 出入少く、良港なし。潮(ホシ)の満干(ホチ)はなはだし。

佐賀市 人口三萬六千、縣廳の所在地。

唐津(カツ) 縣下の要津にて、開港場の一なり。

賀

都 邑

有田 有名なる有田焼の中心地。

伊萬里(リマ) 一小港なり。

住ノ江 近時、開港場の一となれり。有明海に臨む、

九州線 〓 わづかに東部をよぎるのみ。

長崎線 鳥栖にて分れ、佐賀有田を経て長崎に通ず。

唐津線 久保田(カホ)より分れ、唐津に通ず。

伊萬里線 有田より分れ、伊萬里に達す。

有田焼・米・麥・石炭・水産物などを主とす。

名所 名古屋 東松浦半島の北端にあり。豊臣秀吉が朝鮮をせめし時、本陣(ホン)をおさし地。虹の松原 風景きはめてよろし。

字 解

連なり 臨む 沿へる 佐賀 有田 陶器もの 産す

尋常地理 六學年用

管轄 肥前の西南部、及び壹岐・對馬、及び五島をふくむ。
位置 九州島の西北端 佐賀縣の西南にあり。
地勢 全縣下半島と島とよりなり、山多くして平地少し。

西北に西松浦半島―その東に伊萬里灣あり。

東 島原半島 (東 有明海 (アリウミ) 西 天草灘 (アマクサ))

南部 南 野母半島―その東は天草灘。西 彼杵半島 (シノギ)―東に大村灣をいただく。

壹岐 北方の海上七里―周回三十五里―最も小さき國。

對馬 壹岐の西北十二里。上島と下島とに分る。佐須原 (サス)・鹿見 (シシ)・嚴原 (ハラ) は開港場。竹敷 (タケ) は海軍の要港。

平戸島 (ヒラト) 長さ七里半、漁業の利多し。

五島 福江島・久賀島・奈留島・中通島・宇久島。

長 崎

海岸

南部

島

縣

都 邑

長崎市 人口十七萬六千、縣廳の所在地、九州第一の都會。昔よりの開港場なり。三菱 (ミヅ) 造船所あり。

佐世保市 人口七萬九千、第三海軍鎮守府あり。

口ノ津 開港場の一。

鐵道 長崎線 佐賀縣より來り、大村を経て長崎に通ず。支線 佐世保に通ず。

交通 無線電信局 福江島の西南端、大瀬崎 (オホセ) にあり。

產 物 煙草。石炭。甘藷。五島・平戸島・壹岐・對馬の漁業。長崎の籠甲細工。樟腦。硫黃。

名所 鷹島 元寇の古戰場。溫泉岳の溫泉。

島嶼 島嶼の出入 有名なる 開港場 水産物の輸出 朝鮮 相望み 要港

字 解

造船所 軍港 隔てて 朝鮮 相望み 要港

○尋常地理 六學年用

管轄 肥後國全部及び天草島。

位置 九州島中部の西方 福岡縣の南にあり。

地勢 東部と南部とは、山脈重りあひ、土地最も高し。西面に向つて次第に低くなり、肥後の平野をなす。

大火山。熊本の東十一里にあり。

阿蘇山(五千六百尺)

昔の噴火口

東西七里、南北四里。中に一町と十四ヶ村あり。世界第一の大噴火口。

冠山(リヤム)・御帽子山(オハヤ)などの高山あり。

球磨川(カマ) 南部の水を集め西北に流る。日本三急流の一。

白川 阿蘇大噴火口の水を集めて西に流る。もの。

宇土半島 島原半島に對す 北 有明海。南 八代海。

八代海の西方に天草島。天草島の西は天草灘。

熊本

海岸

河流

山岳

縣

都邑

熊本市

人口五萬七千、縣廳、第六師團司令部あり。熊本城 加藤清正の築きしものにて、有名なり。

三角 開港場。八代・人吉(ヒト)などの小都會あり。

九州線 福岡より來り、熊本を経て鹿兒島に通す。

支線 宇土より三角港まで。

肥後米 質よろし、一年の産額約百二十萬石。

馬 約十一萬頭。麥・粟(ア)・大豆・牛なども少からず。

杉・松などの材木類・海産物・天草島の無燐炭などあり。

田原阪 明治十年の役、大激戦のありし地にて名高し。

不知火の奇景あり。

名所

相對す

山岳

重疊

阿蘇山

麓

城内

字解

師團司令部

無燐炭

尋常地理 六學年用

管轄 豊前の東南部と豊後の全部。

位置 福岡縣の東、熊本縣の東北にありて、瀬戸内海に面す。

地勢 火山脈中央を南北に貫く。〔東 大野川の流域……西 山國川・筑後川流域〕地方あり。

山岳 縣内山岳多くして、平野少し。

祖母岳 六千五百尺、九州第一の高山。

火山 鶴見山・由布岳（豊後富士ともいふ）。

海岸 國東半島 九州火山脈の末端。〔瀬戸内海に突出す。南に別府灣あり。〕

地蔵岬 四國の佐田岬と相對して豊豫海峡をつくる。これより南の海岸には出入多し。

筑後川 西南部の水をあつめて、福岡縣に入る。

山國川 上流に耶馬溪の奇景ありて名高し。

縣

都邑 大分市 人口三萬、縣廳の所在地。

別府 津 縣の北端にあつて、交通上の要津。大分より三里、名高き温泉場なり。汽船の便もありて、夏の日はことに賑（ニ）はし。

鐵道 豊州線 小倉より大分に通ず。

産物 國東半島地方の疊表。 蘭蓆。 椎茸。 水産物。

硫黃 九州第一の産地にて、一年に八十萬斤を出す。

耶馬溪 山國川の上流七里の間、日本三奇景の一。

宇佐八幡宮 官幣大社、和氣清麿の使せし宮なり。

名所 別府の温泉。

字解

接し 突出 附近 別府温泉 疊表 宇佐の八幡宮
としたときよまろがかみのおつけを きくにきたる名だかきやしち
トツシュツ フキン ベツフ チンセン タ、ミオモテ ウサ
トツシュツ フキン ベツフ チンセン タ、ミオモテ ウサ
トツシュツ フキン ベツフ チンセン タ、ミオモテ ウサ

○尋常地理 六學年用

管轄 日向の全部。

位置 熊本縣の東、大分縣の南にあり。

地勢

北・西・南の三方に山岳重り、西部はことに高し。國中にも大小の山岳多く、急に東に傾斜し、平地少し。

山岳

霧島山 東 高千穂峰 高さ五千尺 活火山なり。
西 韓國山 高さ五千八百尺 休火山なり。
祖母岳・白髮山・市房山・可愛岳などの高山あり。

宮

河流 皆東に流る。五箇瀬川・美々津川・大淀川などあり。

崎

海岸 東海岸 日向灘 一帯に出入少く、良港なし。
南方に大隅の大崎と共に志布志灣を抱く。

縣

都邑

宮崎町 人口一萬四千、産業少く、あまり繁華ならず。
都城 高千穂宮のありし地なりといふ。茶を産す。

交通

延岡 多く椎茸を産す。
細島 一小港なるも、縣下にては第一の港なり。
鐵道 九州線の一部、わづかに西南のすみを通るのみ。
海岸に良港なく、陸に鐵道少く、交通の便大に悪し。

物産

林産を第一とす 杉・松・樺・樅などの良材を出す。
木炭・椎茸も多く、日平・檜峯の二銅山あり。
牛・馬の牧畜も盛にて、麻は日本第二の産地なり。

名所

宮崎神宮 官幣大社 神武天皇を祀る、宮崎町の附近。
都城 高千穂宮のあとといふ 神武天皇の御誕生地(コタシジ)

字解

海岸出入に乏し 山岳 重疊 未墾の原野 少からず

尋常地理 六學年用

管轄 大隅・薩摩の全部。及び種子島、屋久島をふくむ。

位置 九州島の南端にあり。

地勢 九州南部山脈 縣の北部を東西に走る。

火山脈 縣内を南北に走る。縣内山岳多く、平地少し。

開聞岳 薩摩富士ともいふ。高さ三千尺、船人の目印とす。

御嶽 櫻島にあり、高さ三千七百尺の火山なり。

山岳 川内川(三十七里)を最大(谷)とす。

海岸 東 大隅半島 其の南端は佐多岬 鹿兒島灣を抱く。

西 薩摩半島 其の東南に長崎 東西二里廿四町、南北十四里十二町。

種子島 ポルトガル人の始めて鐵砲を傳へし地。

屋久島 ほとんど圓形の島、杉の名産地なり。

大島 砂糖・甘藷・大島紬の名産を出す。

鹿兒島

縣

鹿兒島市 人口六萬四千。縣廳所在地。九州鐵道の終點。淨光明寺には西郷隆盛等の墓あり。

都邑 國府 國分煙草の産地 日本一の良品(ヒヤウ)なり。

谷山 錫(ス)を産出し、又、多く醬油(ウシヤ)・味噌(ミ)を造る。

鐵道 九州線 門司より福岡・久留米・熊本を経て鹿兒島に達す。

金 日本産額の三分の一を産す 山ヶ野・芹ヶ野・牛尾などの金山名高し。一ケ年に約百拾萬圓を出す。

産物 甘藷(一億八千萬貫目、日本全産額の七分の一)・砂糖(三百萬貫目、琉球に次で本邦第二位)・煙草(八千萬貫目、本邦第三位)・薩摩馬・薩摩紵・薩摩燒

錫・大島紬(オホシマ)・屋久島杉・櫻島大根・近海は魚類多し。

字解

數多の島嶼 薩摩紵 薩摩燒 北岸 煙草 産地 黒砂糖

○ 葦常地理 六甲年用

管轄 琉球諸島全部。大小五十五の島嶼あり。

位置 九州島と臺灣との間につらなる。西北 東支那海。東南 太平洋。

地勢 土地狭く、山岳多く、平地・大河なし。

島嶼 五十五島あり。沖繩島 四里以上を流るる川なし。先島群島 宮古島・石垣島・西表島などあり。

人口 四萬七千、縣廳の所在地。

那覇 鹿兒島より三百七十三海里、開港場の一なり。

琉球紵・芭蕉布などの名産あり。

首里 人口二萬四千、那覇の東一里にあり。もと琉球王の居城ありし地なり。

沖繩

都邑

縣

産物

熱帯性の植物よく繁茂す。

農業を主とす。甘藷を第一とし、山藍多し。豚の飼養盛にて、馬・牛も少からず。

工産 芭蕉布(芭蕉の葉の纖維にて織りたるもの)。琉球紵。琉球紵・黒砂糖・泡盛酒・琉球塗・アルコール。

はげしき毒をもてるハブといふ蛇あり。

雪のふることなく、春と夏との二季あるのみ。

暴風(暴風)の吹くこと少からず。

男女とも簪(簪)をさし、跣足(跣足)を常とす。

衣服は、左を上にし、細き紐(紐)を帯(帯)とす。

教育(教育)を受けざるもの、言語は、全く内地と異なる。

風俗

氣候

字解

氣候 暖に 栽培 一般に 豚 飼養 要津 琉球紵

尋常地理 六學年用

氣候

南部三分の一は熱帯に入る。熱帯の植物よく繁茂(マシ)す。海風の影響(エイキ)により、暑さ割合に烈しからず。雨と風とは一般に多く、雨は、北部に殊に多し。

産業

北部の茶。南部の砂糖。西部海濱の鹽。甘蔗・落花生(ワセイ)。米は一年に二回の收穫あり、質(ツ)は、あまりよろしからず。樟(ク) || 世界第一の大樟林ありて、盛に樟腦(シヤウ)を製造す。豚・水牛・椰子(ヤ)・榕樹(ジュ)・アナナス・芭蕉(バセ)・砂金(サウ)あり

交通

縦貫鐵道(ジュンクワ)西部に通ず。富貴角に無線電信局あり。良港少きたため、海陸の聯絡(レク)十分ならず。

住民

臺灣人 || 三百萬 || 支那人の子孫 || 平野に住し、農商を營む。内地人 || 八萬。生蕃人 || 東部の山地に住し、殺伐(サツ)を好む。

字解

西南端	縦貫	西側	淡水河	最も著る	屈曲に乏し	遠淺
雨量	榕樹	芭蕉	樟	巨大	收穫	製造
家畜	往來	稀	聯絡	概ね	移住	古來
						蕃人
						殺伐

臺北

人口九萬、臺灣第一の大都會なり。製茶業の中心地。

臺灣總督府・臺灣守備隊本部(イホシブ)あり。

鐵道は、基隆・淡水・新竹(チン)の三方面に通ず。

臺灣神社は官幣大社にて、北白川宮能久親王を祀る。

本島第一の港にて、内地と交通の關門(クワン)なり。

臺灣縱貫鐵道の起點(キテ)なり。

米・茶・樟腦を多く輸出す。開港場の一なり。

附近(フキ)より金・石炭を産す。

淡水河口より十五町の所にありて、開港場の一なり。港内水淺く、良港ならざれども、清國との交通關門に當る。

多く茶と樟腦とを輸出す。

臺灣

新竹(チン) || 北臺灣の一要地にて、農業地なり。

臺中(チウ) || 臺灣中部の一都會にて、街路(ガイ)正し。

塗葛窟(トカク) || 西岸にある一要津なり。

○尋常地理 六學年用

地方 (二)

彰化 中部臺灣における屈指の一都會。煉瓦の城壁をめぐらし、四つの門を設く。

嘉義 商業上、交通上の一大要地なり。高さ四間の城壁をめぐらし、四つの門を設く。

臺南 人口四萬八千、本島第二の都會。長さ一里、幅半里の市街。砂糖、米の取引地なるも、良港なきため發達(ハツ)せず。

安平(ピアン) 臺南の西一里。良港ならざるも、砂糖の輸出盛なり。

打狗(タカ) 砂糖・米を積出す要津なれども、碇船(ハクイ)に便ならず。

馬公 澎湖島にあり。軍事上の要地にて、海軍要港となる。水深く、風波のうれへなく、大艦數十を入れ得べし。

字解

淡水河 出入繁く 近傍 所 就中 打狗 要津 要港

位置 本州の東北にあり。北海道本島と、千島列島とよりなる。東 太平洋。南 津輕海峡をへだて、本州に對す。西 日本海。北 宗谷海峡をはさみて樺太を望む。

面積 北海道本島は、九州島と臺灣との合計よりも少しく太なり。六大島中の第二位。千島列島は、四國よりも少しく小なり。管轄 北海道廳をおさ、その下に十四支廳ありて全道を支配(イ)す。

千島火山脈 北海道本島を東西に走る。カムチャツカ半島より起り、千島列島となり、本島の中央を西に走り、渡島より本州に入る。

北州山脈 北海道本島を南北に走る。樺太より來り、天鹽・北見の境を南に走り、南端(ナミ)は、襟裳岬(エリモ)に至りてつく。

一山岳 山脈

この二大山脈、本島内にて十文字に交る。

(一) 北海道地方

高峰

ヌタクカムウシユベ岳〔石狩岳ともいふ。本島第一(七千七百尺)。天鹽岳・暑寒別山・タルマイ岳・十勝岳あり。火山〕旭岳・マツカリ岳・駒ヶ岳・雄阿寒山。

土地の高〔中央部最も高く、四方に向つて低くなる。低(テイ)〕〔河流も、中央高地より四方に流る。〕

地勢

二河流・平野

河流

〔石狩川〕日本第二の大河〔長さ九十三里。天鹽川(七十八里)・十勝川(五十里)・釧路川(卅四里)〕

〔平野は、本島面積の五分の一あり。〕

平野

〔三大平野〕石狩平野〔石狩川流域(九億萬坪)〕十勝平野〔十勝川流域(六億萬坪)〕天鹽平野〔天鹽川流域(二億萬坪)〕

西南

〔南に渡島半島あり。南は函館灣―北に内浦灣。西北に後志半島ありて、先端は神威岬。〕

三海岸

中央の南端〔襟裳岬(ザキセ)〕〔北州山脈の南端なり。〕

東北〔北〕知床岬(コザキト)〔南〕納紗布岬(ナサフ)〔この間に根室灣あり。〕

北端〔ホク)〕宗谷岬(サウヤ)。

氣候

〔温度〕一般に寒けれども。雪は、北陸道よりも少し。西岸は少しく温暖。東北の方面は寒氣強し。千島列島は、ことに寒氣強く、雪多し。

〔雨〕一般に少し―中央の高地より東北地方は殊に少し。

住民〔人口百四十餘萬―其の内にアイヌ人二萬ばかりあり。〕

産業

水産

〔世界三大漁場の一に居り、一ケ年五千萬圓に達す。〕

〔農産〕豆・馬鈴薯・林檎・麻・麥。林産〔蝦夷松・檜松。〕

〔礦産〕石炭・硫黃・砂金。工産〔麻布・ビール・函館氷。〕

交通

幹線 函館より起り、小樽・札幌を経て旭川に至るもの。
支線 旭川・宗谷間(工事中)。旭川・釧路間。岩見澤・室蘭間。
海上 季節により濃霧(ムウ)・流水(ヨリウヒ)に妨げらるゝことあり。

連れる 列島(レツダウ) つしまがならんでれつをくんでるやうなものを
津軽海峡(ツケルカイケン) 宗谷海峡(ソウヤカイケン) 挟み

樺太(カウソウト) 高峻(カウシユン) 分水嶺(フンスイレイ) 駒が岳(コマダケ) 概ね(オホム) 流域(リウイキ) 屈指(クツシ) 開拓(カイタク) 一般(イパン) に

内浦灣(ウチウラリン) 寒氣(カンキ) 降雪の量(カウセツ リヤウ) 維新後(イヂユウ) 移住(イヂユウ) 昆布(コンブ) 農牧(ノウボク) 馬鈴薯(バレイチヨ) 林檎(リンゴ)

栽培(サイバイ) 飼養(シヤウ) 蝦夷松(エゾマツ) 鑛産物(クワウサンブツ) 硫黄(イワウ) 幹線(カンセン) 支線(シセン) 頻繁(ヒンパン) 濃霧(ノウム) かいこと

字解

札幌(サッポロ) 人口七萬。北海道廳・東北帝國大學の農科大學あり。
市街の井然(ゼンゼン)たること、他に類なし。
麻布・ビールの産名高く、附近に林檎多し。
小樽(オケダマ) 人口九萬。商業盛大にして、材木の輸出多し。
漁業の中心地にて、汽船の往來繁し、開港場の一。

北海道地方

都 邑

函館(コトダテ) 人口八萬七千、良港にして、昔よりの開港場。
横濱より五百十八海里。多く水産物を輸出す。
南に五稜廓(ゴリョウクワク)あり明治維新(シヨウシ)の際戦争ありし地。

旭川(アサヒガハ) 人口三萬四千、上川平野にあり、四通八達(シツトウハツダツ)の地。
第七師團司令部あり。鐵道の分岐點(ブンキキ)。
市街の規模(モトメ)の大なることは日本第一なりといふ。

室蘭(ムロロ) 人口一萬、石炭の輸出港なり。開港場の一。
釧路(クニロ) 多く硫黄を輸出す。

落石(オキシ) 無線電信局(ムセンキョウ)を設く。

三十有餘の島あり。全部火山性にて、火山多し。
最大なるは擇捉島(セタクジマ)にて、最も北端なるは占守島(シユンシュウ)。
近海には、膾炙(カイシヤク)獸(セウ)・臘虎(ラツコ)などの海獸多し。

字解

麻布(アサヒ) ありもの 木材(モクザイ) 有名(イウメイ) 開港場(カイカウチャウ) 積出す(ツミダス) 分岐點(ブンキキ) 概ね(オホム) たい

○尋常地理 六學年用

位置

北海道本島の北にあり。
東にオホーツク海。西に間宮海峡を隔て、亞細亞大陸。

管轄

北緯五十度より
北は露西亞の領地。
南は日本領
樺太廳を豊原におく。
五支廳ありて地方を治む。

面積日本領の面積約二千二百方里。

地勢

一 山脈

西樺太山脈の末端(マツ)は西能登呂岬(コシノト)となる。
東樺太山脈の末端は、北知床岬(キタシレ)となる。
高山 日本領にては高さ四千尺のアンバーマイト山を最
高とす。南部の鈴谷山は二千五百尺。

二 河流

幌内川(ホロチ)は本島第一の長流にて七八十里あり。
内淵川(ナイガハ)・鈴谷川(ガズヤ)・留多加川(ルダカ)などあり。
幌内平野 長さ二十八里、幅六七里、農業に適せず。
鈴谷平野 内淵・鈴谷・留多加諸川の流域を總稱(ヨウシ)せ
る名にて、農業に適す。

三 平野

三大半島

南端 東に中和床半島。
西に西能登呂半島。
東北に北知床半島。

四 海岸

二大灣 南に亞庭灣。北に多來加灣。
一般に小出入なく、従つて良港なし。

太 地 方

氣候

冬季長く、寒氣強し。大泊の盛夏(セイ)は、大阪の五六月位なり。
十一月より四月まで海水凍る。雪は北海道位にて、雨少し。
西南海岸は少しく暖く、冬も海水凍らずして舟運の便あり。

産 業

水産 本島の主要産業にて、一ヶ年六百萬圓に達す。
鱈・鱒・鱈・鮭・昆布・鰻・鰯・海豹など。
林産 面積頗る廣く、蝦夷松・檜松・落葉松など多し。
鑛産 石炭に富むも、未だ盛に採掘(クツ)せられず。
農産 未だ盛ならず。牧畜(ボク)は、やゝ盛なり。

○尋常地理 六學年用

交通

大泊・豊原・真岡の間には、道路改修せられ馬車も通ず。大泊より豊原まで二十六哩間には、輕便鐵道あり。海上大泊・真岡の二港あり。大泊は冬季海水凍結す。

住民

凡そ二萬五千あり、大部分は内地よりの移住者。土人アイヌの外、二三の種族あり。其數少し。

豊原 住民二千餘人、樺太應・樺太守備隊司令部あり。

都會

大泊 人口五千、海陸交通の要地、冬は海水凍り交通を絶つ。

真岡 西海岸における要津、冬も海水凍らず、交通を保つ。人口三千、西海岸漁業の中心地にて、ことに鱈漁多し。

字解

北半 露西亞 南半 邦領 縦貫 狭む 注ぐ
偏せる 冬季 降雪 殆ど 異ならず 漁期 肥沃 道路の改
修 定期航海 敷設 凍結 傾向 漁獲

位置

亞細亞大陸東端の中央にある一大半島。

東南 近く中國及び九州に對す。

西 黃海。北 清國の滿洲。東北 露西亞。

東 日本海 本州と共に日本海を擁す。

一萬四千四百七十七方里 本州よりも三百方里小さし。

日本全領土の約三分の一にあたる。

朝鮮人 九百六十三萬八千人。

内地人の在留するものを合せて約一千三百萬人。

南北兩部大に趣を異にす 南部高地 三四千尺。

一般に山岳多く、平地少く、北部高地 七八千尺。

南部 大白 東岸にそひ南北に走る 半島の骨。山脈 金剛山 餘り高からざるも名山なり。

朝鮮地方 (一)

地勢一

山岳

北部

長白山脈

白頭山

一般に高峻(ユウシ)にて、大小數條(スウ)の山脈西南より東北にわたり、人の行ききたる事なき所多し。満洲との境にある大山脈なり。
高き八九千尺、朝鮮第一の高山。舊火山に山上に大噴火口あり。直徑二里の池となる龍王池。山上は白き石にて被はれ、いつも雪をいたゞきたる如く見ゆ。

河流

日本海・朝鮮海峽・黄海の三方に分れ流る。黄海に注ぐもの多く、大河なきも交通運輸の便多し。豆満江(九十里)。洛東江(七十里)。錦江。漢江(七十里)。大同江(七十里)。鴨綠江(百四十里)に滿洲との境。

地勢二 海岸

平野

東海岸

西海岸 南海岸

大白山脈の東に急傾斜(キツケ)をなし、平野なし。南部に洛東江の流域地方に少しく平野あり。屈曲(クツキ)少く、山脈海岸にせまり、平野も良港も乏し。東朝鮮灣の大入海に永興灣(ウイコ)に海軍の要港あり。小出入多く、海岸には平野もあり。

海は東海岸より浅く、潮汐干満の差三十尺以上に及ぶ。釜山・木浦・群山・仁川・鎮南浦などあり。鎮海に第五海軍鎮守府あり。島嶼極めて多く、濟州島最も大。漁業の根據地(コンキ)とす。船人の目印(メシ)とす。

一般に寒暑ともに烈し。南部の海岸地方は大に温和(ワシ)なり。雨は、夏・秋の二季に多けれども、其の量概(ガ)して少し。

○尋常地理 六學年用

産業

農産

主産業なれども、山地多きと農法の不進歩(フシ)により、
發達(ハツ)せず。米・麥・大豆・人參(ニンジン)。
米と大豆とは多く我内地へ、人參は清國へ輸出す。

畜産

牛・豚(ブ)多く、牛皮(ヒョウ)を出す。

林産

北部より朝鮮松・落葉松(カラ)・樅(モ)・山毛櫸(ナ)の良材(ライヤウ)を出す。南部の山は禿山(ハグ)のみにて、薪(タキ)さへ少し

礦産

金・銅・鐵・石炭あれども、探掘(サウ)盛ならず。

水産

すこぶる豊富なり。明太魚(日本海)・石首魚(黄海)・鯛(南部)・
鮫・鰻・鱒・鯖・鮪・海鼠・昆布・石花菜など。

鐵道

支線 京仁線 馬山線 兼二浦線 平壤線 湖南線 大田・群山間。
京仁線 京城・仁川間。平壤線 平壤・鎮南浦間。
馬山線 三浪津・馬山間。兼二浦線 黃州・兼二浦間。
京釜鐵道 京城・釜山間。京義鐵道 京城・新義州間。

交通

工事中のもの

京元線 京城より元山に通ずるもの。
湖南線 群山より木浦に至る。

道路

きはめて不完全にて、道路として見るべきもの少し。
川に橋も渡舟もなき所あり。今、改修中(カイシュウ)なり。

船運

殆ど全部内地人の手による。
下關・釜山間には、朝夕二回の聯絡船(ケンラ)通へり。

政治

明治三十七八年戦役の後、我國の保護國(ホゴク)となり、四十三年
八月、全く併合(ガフイ)して、韓國(コク)を改めて朝鮮とよぶ。
京城に總督府をおき、十三道に道廳をおきて全土を支配す。

字解

亞細亞大陸 滿洲 露西亞 趣を異にす 急傾斜 河畔 沃野
高峻 連互 境上 森林 屈曲 濟洲島 干滿 往往 寒暑
温和 牛皮 發達 移出 綿織物 綿絲 往來 從來 面目

○尋常地理 六學年用

朝鮮

京城

人口二十四萬。朝鮮の首府。總督府・守備軍司令部あり。周回四里半の城壁(シキウ)にて圍み、八つの門を設く。中央の大道鐘路(シヨ)によりて市街を南と北とに分つ。南大門のそとに停車場あり、釜山より二百七十五哩。

龍山

京城の西南一里、鐵道の分岐點、百貨集散の大市場。

仁川

人口三萬三千、京城より廿五哩、京城の咽喉(ヨシ)に當り、朝鮮貿易の四割を占む。門司より五百海里、四十時間にて達す。

開城

人口四萬五千、人參(ジン)産出の中心地なり。

平壤

人口二萬五千、大同江の岸に立ち、貿易盛なり。秀吉の朝鮮征伐・明治廿七八年戰役などにて、名高き古戰場。

鎮南浦

大同江の河口内にあり。北部にて重要な貿易港なり。

兼二浦

日露戰役中、軍事上の一大要地となりし地なり。

新義州

鴨綠江口より十里。京城より三百十二哩、京義鐵道の終點(チンウ)。

義州

清國の安東縣に對し、安奉鐵道により南滿洲鐵道に聯絡す。

龍岩浦

鴨綠江口の開港場、材木の取引地、附近に砂金を産す。

群山

錦江口にある開港場、朝鮮第一の農産地をひかへたり。

木浦

西南端の開港場にて、米・大豆・牛皮などの市場なり。

馬山

釜山の西十四里、近く海軍の軍港鎮海灣(チンカ)あり。

釜山

東南端にある良港にて、昔より我國と交通の門戸なり。對馬より三十海里。門司より百二十二海里、十時間にて達す。内地人二萬以上、全く日本風の市街にて、貿易盛なり。

元山

東海岸第一の貿易港、釜山・浦鹽斯德(ストツク)間の要港。

城津

新しき開港場にて、また盛ならず。

地方

字解

總督府 咽喉 門戸 日清戰役以來 殊に著る 終點 相對す

○尋常地理 六學年用 四十九

東 關

關東州

位 置

滿洲の最南端なる遼東半島の南端。

東南に黄海（カイワウ）、西南に渤海灣（ボツカ）。

南に海をへだてて清國の山東省（サントウ）に對す。

面積に二百〇五方里に滋賀縣よりも二十方里小し。

約三十七萬五千餘人。

日本人の在留するもの約七萬人。

長白山脈の西南端なり。

ひくき丘陵（キウリ）起伏（キフ）して、平野なし。

地 勢

海岸

東に大連灣、南に旅順灣、西に金州灣。

大連・金州兩灣の間は幅一里。

屈曲著しく、良港灣あり。

渤海の口を扼する最も重要な地。

もと清國の經營せし大軍港。

日清・日露兩戰役に我が將士の血を流せし地。

關東都督府の所在地。

港は東西兩區に分れ、住民約二萬あり。

滿洲の一大門戸にて、東洋に稀なる良港。

大棧橋（ダイサイカ）は、長さ三百間、幅五十間あり。

市街の規模（モトメ）頗る大きく、街路井然（イゼンゼ）たり

住民約三萬、門司より二晝夜にて達す。

金州灣に臨む。人口約一萬。

今は旅順・大連に商業上の利をうばはる。

南滿洲鐵道（ミナミマンシュウテツドウ）大連を起點とし、滿洲に入り、西洋に通ず

支線に南關嶺（ナンカンリョウ）より旅順に至る。

海運に大連港により、内地はもとより、世界各地に通ず

交 通

都 邑

旅 順

大 連

金 州

○尋常地理 六學年用

州 附 滿 洲

位置 面積 住民 地勢 氣候

清國の東北部にて、清國の領地。
 東南に朝鮮。東と北に露西亞の西比利亞(リベ)。
 西に蒙古(モゴ)地方及支那本部。南に渤海灣・黄海。
 六萬三千六百方里に我が國より二萬三百方里大。
 區分は盛京省(南部)。吉林省(中部)。黒龍江省(北部)。
 約一千六百萬に滿洲人といふに馬に乗る。
 我が國人の在留するもの年々多く、日本風の市街現る。
 西・北に興安山脈。三方は、ほとんど山にてかこまる。
 東南に長白山脈。中央に滿洲大平野に農業地。
 二大河。松花江に北部の水をあつめて黒龍江に入る。
 遼河に南部の水をあつめて渤海灣に注ぐ。
 寒暑の差はなはだしく、晝夜温度の差も多し。
 夏はことに暑くして、冬は河水も凍結(ケツ)す。

滿洲産業

交通

農産 滿洲の主要産業高粱・大豆・麥・煙草。
 豆粕・豆油の製造も盛なり。
 水産 農業に次で重要産業に關東州の製鹽・漁業。
 林産 北部東南部は頗る多く中央部より西南部は少し
 牧畜 馬・豚多く、驢馬(ロ)・山羊(ヤ)も少からず。
 鑛産 金・鐵・石炭多けれども、採掘(サイ)盛ならず。
 煙台(タニ)・撫順(フジュン)の二炭坑は、我が國の經營(エイ)。
 露西亞に東清鐵道。滿洲の中央を横ぎるもの。
 哈爾濱(ハルビン)より長春(チヤウシュン)まで。
 日本 南滿洲鐵道に長春より大連旅順に至る。
 安奉鐵道に安東縣より奉天まで。
 吉林鐵道に吉林・長春間工事。
 清國 京奉鐵道に北京(ペキ)より奉天迄。
 途中(ユウチ)より營口に至る支線あり。

〔水運〕大連・營口を二大門戸とし、世界各地に通ず。遼河・松花江・鴨綠江三大河は水運の便多し。

〔奉天〕人口十八万。滿洲の政治・交通の中心地。清朝先祖代々の靈廟（レウイ）のある所なり。

〔遼陽（ヤルウ）〕滿洲の大商業地。農産物の大集散地（サイシツフ）。

〔營口（エイコウ）〕遼河口より十三里。大豆・豆粕の大市場。

〔長春（チャウ）〕日・露鐵道の接續地（ケツツク）なり。

〔哈爾濱（ハルビン）〕東清鐵道の分岐點（ブンキキ）交通上の要地。清朝先祖の起りし地。奉天に總督をおく。

露西亞が占領せんとする勢ありしが、日露戦争の結果、我が國は、關東州の租借・南滿州鐵道・炭坑等を得たり

字解

- 租借地ソウヤクチ かつてあるところ
- 遼河レウガ 接續ケツツク
- 安奉アンホウ 京奉ケイホウ 遼陽レウヤウ 屈指クツシ 營口エイコウ 要驛エイエキ 結果ケツクワ 權利ケンリ
- 漁鹽ギョエン 旅順リョジュン 大連タイレン 都督府トトクフ 起點キテン 廣濶クワクワツ 松花口シヨウクワカウ

沿革

都邑

形状 球の如き形、ゆるぎに地球といふ。

大小 直徑 凡そ三千二百里。 周圍 凡そ一万〇百八十五里。

地球の運轉 自轉 南北の直徑 地軸（チヂ）を軸とす。 西より東に一回轉 二十四時間 晝夜を生ず。 公轉 一定の軌道（キダウ）を通りて、太陽の周りを一周す。 三百六十五日餘 一年 春・夏・秋・冬を生ず。

兩極 北極 地軸の北端 地球の北端。 南極 地軸の南端 地球の南端。

地球の表面（メン）における地點（テン）の位置を明にするためのもの 赤道（カウ） 南北兩極より等しき距離 南北の中央。

緯度 北緯 赤道に平行（カウ）して、北に引ける横線（ヨウセン）。 赤道を零度とし、北極までの間を九十度に分つ。 赤道より北に於て、南北の位置を示すに用ふ。

○尋常地理 六學年用

經緯線

五十六

經度

南緯 赤道に平行(カウ)して南に引ける横線(ワツ)。
赤道を零度とし、南極までの間を九十度に分つ。
赤道と直角に交り兩極を連ぬる縦の線 子午線ともいふ。
英吉利(リス)のグリニチ天文臺の經線を零度とす。
それより東 東經、西 西經。各百八十度あり。
地球の表面における東西の位置を示すに用ふ。

日本の位置

東端 東經百五十六度三十二分。
西端 東經百十九度十八分。
南端 北緯二十一度四十五分。
北端 北緯五十度五十六分。

熱帶

赤道より南と北とへ二十三度半づつ 最も暑き地方。
北温帶 北緯廿三度半より六十六度半迄 氣候温和。
南温帶 南緯廿三度半より六十六度半迄

三帶

寒帶

北寒帶 北緯六十六度半より北極迄 最も寒き地方。
南寒帶 南緯六十六度半より南極迄

日本 臺灣の南部三分の一は熱帶、その他は皆温帶にあり。

海と陸 海洋の面積は、陸地面積の二倍半あり。
陸地の全面積は、日本の三百三十倍あり。

五大洋 太平洋・大西洋・印度洋・北極洋・南極洋。

地球の表面

六大陸

東半球 亞細亞洲(アジヤ) 面積最も大なり。
大洋洲(オシヤ) 面積最も小なり。
歐羅巴洲(ヨーロッパ) 我國の西洋とよぶ地。
亞弗利加洲(アフリカ) 未開の地多し。
北亞米利加洲(北アメリカ) パナマ地峽により
南亞米利加洲(南アメリカ) 接續(セツ)す。

西半球

字解

直徑 軸 回轉 周り 距離 並行 經線 子午線 地點 暑氣
大抵 大洋洲 印度洋 大洋洲 歐羅巴洲 亞米利加洲 接續

尋常地理 六學年用

五十七

清國

位置 亞細亞大陸の東部より中部に亘れる大國。

國土 七十一万方里 亞細亞洲の四分の一 日本に廿五倍。

地勢 中部以西は山地 巴ミル高原は世界最高の地。

産業 米・生糸・茶は、世界第一の大産地にて、綿・大豆も多し。

都邑 北京(ペキ) 人口百六十萬、天津(テン) 人口七十萬、上海(ハイツン) 人口六十五萬、漢口(カン) 人口八十七萬、廣州(クワン) 人口九十萬、香港(ホン) 人口二十萬、

地勢 東南に大山脈ありて、西北に開け、大平原をなす。

氣候 一般に寒氣強く、東北に世界最寒の地あり。

産業 材木・毛皮も多し。裏海(カスピヤ)の西岸なるバクラーは、有名なる石油産地にて、我が國へも多く輸入す。

浦鹽斯德(ウラジホストツク) 露國東洋艦隊の根據地にて、又開港場なり。人口三萬八千。敦賀より二晝夜にて達す。十二月より四月迄の間は海水凍結(クワ)す。

シベリヤ鐵道 浦鹽斯德を起點とし、東清鐵道に連り、遠く歐羅巴に通す。約五千哩。我國と西洋との交通は、この鐵道によるを最も便なりとす。凡十五六日にて達すべし。

(二) 界

印度

位置 || 亞細亞の南方中央にある大半島 || 印度洋に突出す。

北部

ヒマラヤ山脈 || 世界第一の大山脈。
エベレスト山 || 高さ二萬九千尺。

地勢

南部は一帶の高原にて、世界第一の高山なり。
デカン高原といふ。

中部

東 || ガンジス河
西 || インダス河
大平野あり || 大農産地。

國土 || 面積は我國の八倍餘、人口は五倍、英吉利の領地。

英吉利の寶庫(たから)と稱せられ、産物多し。

産業

棉花 || 世界三大産地の一にて、孟買綿(ボンベ)といふ。
日本との貿易 || 輸入 || 羽二重・マツチ・綿メリヤス。
輸出 || 棉花・藍。

都邑

カルカッタ || 人口百萬、印度の首府、市街壯麗。
ボンベ || 棉花の大輸出港(横濱より三百三十海里)。
コロンポ || セイロン島にあり || 世界交通上の要港。

印度支那半島

位置 || 清國の南、印度半島の東にある半島地方。

區分 || 暹羅(シヤム)・佛領印度支那(フツコク)・ビルマ(ビルマ) (英國領)。

産物

米 || 我國へも多く輸入す || 南京米(ナンキ)といふもの。
紫檀(シダ)・黒檀(クワン)・藤(フ)なども、この地方の産なり。
シンガポール || 世界交通の要地 (英國領) (横濱より二千八百七十海里)。

フィリピン群島は米國の領地、その他は和蘭(オランダ)の領地。

マライ群島

スマトラ・ジャバ島には平地ありて、砂糖の大産地なり。
フィリピン群島の首府にマニラあり。マニラ麻の産多し。

大洋洲

オーストラリア

英國の領地にて、面積は日本の十六倍。
羊毛(世界第一の産地)・金(世界三大産地の一)の産多し。
メルボルン(首府)・シドニーあり(横濱より五週間)。

ハワイ

横濱より三千四百海里 || 米國の領地なり。
砂糖の産多く、日本人七萬二千あり。首府 || ホノルル

字解

須要(スエ) 漢口(カンコウ) 未開(ミカイ) 浦鹽斯德(ウラジホストツク) 最高域内(サイカウ) 米領(ベイリヤウ) 地味肥沃(チミヒコ)

○尋常地理 六學年用

英吉利

位置 〓 歐羅巴大陸の西岸に近き島國。我國との同盟國(イギリス)。
國土 〓 我國の半分。全領土を合すれば、世界陸地の五分の一。
住民 〓 四千五百萬。全領土の人口四億 〓 世界人口の四分の一。

大商業國

商船は世界商船のほとんど半を有す。
世界どこにも英國旗の商船ひるがへる。

産業

大工業國

鐵と石炭とに富み、工業盛大なり。
製鐵・鐵器・各種の織物・造船業・硝子。

日本との貿易

輸出 〓 鐵・鐵製品・毛織物・金巾(キネ)
輸入 〓 羽二重・麥稈眞田・銅。

海軍の強大なること、世界中、何れの國も遠く及ばず。

都邑

倫敦

首府、人口七百三十萬 〓 世界第一の大都會。
世界商業の中心地といふべし。

横濱より海路六十日、シベリヤ鐵道にて十七日。

其他

リバプール・マンチエスター・グラスゴー・バーミンガム・エヂンバラ・タブリン・ケンブリヂなど。

佛蘭西

位置 〓 歐羅巴大陸の西南部 〓 英吉利海峽を隔て、英吉利の南。
面積・人口 〓 ともに我が國より少しく小なり。

地勢

東南に山をおひ、西北に開けて大平野をなす。
モンブラン峰 〓 歐羅巴第一の高山 〓 高さ一萬六千尺。

産業

昔より美術工藝を以て世界に名高し。
絹織物・葡萄酒(世界一等品を出す)・砂糖・絹糸。

日本との貿易 〓 輸出 〓 縮緬吳呂(チリソ)・葡萄酒。
輸入 〓 生糸・羽二重・漆器。

都邑

パリ

首府 〓 人口二百八十萬 〓 歐羅巴第二の大都會。
城壁にて圍まれ、市街華麗(レワ)なるに名高し。

マルセ

地中海岸にあり。この國第一の大貿易港。

リヨン

横濱より九千三百海里 〓 五十四五日の航程。
リヨン 〓 絹織物の大産地 〓 世界一の絹糸大取引地。

世

獨逸

六十四

位置 || 歐羅巴洲のほとんど中央 || 佛蘭西の東北に連る。

面積・人口 || 日本より少しく小く、佛蘭西より少しく大。

地勢 || 西南部に山をおひ、中央より北部は北獨逸大平野。河流は、大樹北に向つて流る。

農業よく進歩し、林業の發達(カツ)は世界第一なり。

麥・甜菜(イコンダ)・砂糖製造・葡萄酒など多し。

産業 || 鐵・石炭に富み、鐵工業・織物・ビールの醸造多し。

日本との貿易 || 輸出 || 鐵類・毛糸・砂糖・染料。

輸入 || 羽二重・生糸・麥稈眞田。

商工業の進歩著しく、英吉利と競争(サヤク)しつつあり

學術の進歩・陸軍の精銳(キイ)は、世界第一なりといふ。

都邑 || 柏林 || 首府 || 人口二百四萬 || 歐羅巴商工業の中心地。

ハンブルグ || 此國第一の大貿易港 || 人口八十萬。

(三) 界

露西亞

位置 || 歐羅巴洲の東部にある大國。

面積・人口 || 面積 || 歐羅巴洲の二分の一以上を占む。

人口 || 日本のご二倍よりも少しく多し。

地勢 || 中部に高さ七八百尺の高地ありて、地勢を南北に分つ。

ほとんど全國大平原にて、海水面より低き所もあり。

農業を主とす || 麥・麻の産ことに多し。

産業 || 馬・牛・羊の牧畜も多く、金・白金の産もあり。

日本との貿易 || 輸出 || 石油を主なるものとする。

輸入 || 生糸・茶。

都邑 || ペテルブルグ || 首府 || 人口百四十萬。

モスコー || 内地商業の中心地。大連より二週間。

○尋常地理 六年用

六十五

位置 || 獨逸の東南、露西亞の西南にあり。

面積・人口 || ともに日本よりやゝ小なり。

地勢 || 四方山に圍まれ、中央に大平野あり。

〔ダニユール河 || 歐羅巴洲第一の大河 || 六百六十八里。〕

産業 || 農業・牧畜を主とす。

首府 || ウィーン || 人口百八十六萬、埃地利の首府なり。

政治 || 各獨立國にて、二國共同にて埃地利皇帝をいたゞく。

位置 || 歐羅巴西部の南方にある半島國。

面積・人口 || 面積は日本の半より小。人口は日本の半より多し。

地勢 || 北境と國中に大山脈ありて、國中山岳多し。

〔北部に少しく平野ありて、農産多し。〕

産業 || 農を主とす。生糸も産出し、美術品に名高し。

都邑 || ローマ || 首府。人口四十六萬。歴史上の遺跡(*)に富む。

〔ネーブルス || 風景美 | 貿易港 || 日本船の寄港地なり。〕

伊太利

埃地利

洪牙利

其他の諸國

瑞西(工業國)・白耳義(工業國)・和蘭(農業と航海業)・丁抹・西班牙・牙・葡萄牙・瑞典・挪威・希臘・土耳其などあり。

エジプト (英國領) 本洲の東北隅、ナイル河の流域 || 農業地。三十五里の間を掘割る。世界交通上の大要路。

亞弗利加洲

英吉利領 南阿弗利加

本洲の南端地方。羊毛 || 世界三大産地の一。金剛石 || 世界第一の産地。金 || 世界三大産地の一。

字解

同盟國 巨れる 合算 無比 宇内 美術工藝 葡萄酒 華麗 發達 貫流 河畔 遺蹟 東北隅 運河 要路 金剛石

○尋常地理 六學年用

世

亞米利加
合衆國

位置 || 北亞米利加洲の中部を占むる大國。

面積・人口 || 面積は日本の二十倍。人口は日本の一倍半。

地勢 || 西部に大山脈ありて一大高原。東北にも山脈あり。

中部より南部に一大平野あり || 世界第一の農産地。

ミシシッピ河 || 長さ一千七百里 || 世界第一の長流。

世界第一の大産出物 { 麥・棉花・玉蜀黍 (マウモ)。

銅・鐵・石炭・石油・金。

工業日に月に盛大 || 製鐵・綿糸・麥粉・砂糖・諸機械。

日本との貿易 { 輸出 || 棉花・石油・麥粉 (ソリダ)・鐵類。

輸入 || 羽二重・花筵・麥稈・真田・茶。

都邑 { ワシントン || 首府 || 人口廿九萬 || 市街清潔。

ニューヨーク || 人口三百八十萬、世界第二の大都會。

桑港 { 人口三十六萬 || 太平洋岸の重要なる港。

横濱より四千九百海里、附近に日本人多し。

界

(北亞米利加洲)

加奈陀

位置 || 亞米利加合衆國の北。全部英吉利の領地。

面積・人口 || 面積は日本の十四倍。人口は日本の十分の一。

地勢 || 東・南・西の三方高く、東北に向うて低し。

産業 { 東南地方は、世界有名の林業地。

ニユーファウンドランド島 || 有名なる大漁業地。

都邑 { オタワ || 首府。ハリファクス || 歐洲との交通門戶。

位置 || 亞米利加合衆國の西南にある獨立國。

面積・人口 || 面積は日本の三倍。人口は日本の四分の一。

地勢 || 全國一大高原をなし、火山多く、大平野なし。

産業 || 鑛業を主とし、銀は世界一の産地。金・銅・鐵もあり。

首府 || メキシコ || 人口三十三萬一七千尺の高原にあり。

太平・大西兩洋の連絡 || 南部の地狹に横斷鐵道を敷く。

パナマ地峽 || 南北亞米利加を連ぬる最も狹き所 || 目下運河工事中。

世界 (四)

伯刺西爾

亞爾然丁

位置 南亞米利加洲の東部を占むる大國。

面積・人口 面積は日本の十二倍。人口は半分に足らず。

地勢 南部は一帶の高原にて、北部に大平原あり。

アマゾン河 全長千三百七十五里、世界第一の大川。

産業

アマゾン河の流域には、世界第一の大森林あり。珈琲(コロンビア)の産も多し、金剛石・金の産出も多し。

首府 リオデジヤネイロ この國第一の貿易港なり。

位置 南亞米利加の南部 伯刺西爾の西南。

面積・人口 面積は日本の四倍。人口は十分の一に足らず。

地勢

西境に大山脈あれども、國中大部分は平野なり。氣候溫和、地味肥沃にて、農業・牧畜に適す。

南亞米利加洲中、第一の良國土なり。

(南亞米利加洲)

智利

其他

諸國

コロンビヤ。ペルー。エクアドルなどの諸國あり。

都邑

サンチャゴ 首府 人口十九萬。太平洋岸にある南米第一の港。我が南米航路の終點(チリ)に當る。

産業 硝石(セサ)を主とし、鐵・石炭・水銀等、鑛業を主とす。

地勢 全國大山脈中にありて高く、平野なし。

面積・人口 面積は殆ど日本と等しく、人口は二十分の一。

位置 亞爾然丁と相背き、太平洋岸の細長き國。

産業 羊毛 世界三大産地の一。小麥・麻・革類も多し。

首府 ブエノスアイレス 人口八十五萬、南米第一の都會。

字解

大森林

珈琲

牧畜

羊毛

相背き

南米航路

終點

長流

鑛産物

就中

産額

桑港

重要

要點

流域

尋常地理 六學年用

位置

全部殆ど北半球の温帯中。臺灣の南端わづかに熱帯に入る。亞細亞洲の東部にある六大島と一大半島とよりなる。

面積・人口

面積四萬三千二百四十六方里餘。人口約六千三百五十五萬。

地勢

土地狹長(ヤウチ)にて山岳多ければ、大なる平野に乏し。河流大河流なく、おほむね急流にて、舟運の便多からず。海岸屈曲多くして良港に富み、世界交通の便よし。風光天然の風光に富み、世界の公園と賞美せらる。

氣候

南端は暑く、北端は寒きも、概して温和にて四季の別あり。

帝國

産業

農業は、太古より我が國第一の産業なり。米・麥・大豆・菜種・甘藷・茶・麻の産多し。生絲は清國に次いで、世界第二の大産出額あり。工業綿糸綿織物・絹織物を始とし、マツチ・陶磁器・花筵など鑛産石炭と銅とに富み、金・銀・硫黄あり、鐵は少し。水産鱒・鯉・鮭・昆布を始とし、凡ての水産物に富む。

地理概説

交通

輸出 生糸・綿糸・絹布・銅・石炭・マツチ・茶。
輸入 棉花・鐵材・鐵製品・米・毛織物・砂糖・石油。
二大貿易港 横濱・神戸。三大取引先 米・清・英。

鐵道 殆ど六千哩に達し、主要なる各地に通ず。最もよく發達せる地方 關東・近畿・九州北部。

海運 横濱・神戸の二大中心より、世界各地へ通せざる所なし。萬世一系の天皇を戴き奉る東洋唯一(ユニ)の立憲帝國。

帝國議會 貴族院(キョク)・衆議院(シュウギ)の二院よりなる。中央政府 内閣・外務・内務・大藏・陸軍・海軍・司法・文部・農商務・逓信。

地方廳 府縣廳・郡役所・臺灣總督府・朝鮮總督府・北海道廳・樺太廳・關東州都督府などあり。

裁判所 大審院・控訴院・地方裁判所・區裁判所。

普通教育 小學校・中學校・高等女學校。全國に普及し、何地にもあり。

政治

教育

專門教育

東京・京都・福岡・仙臺の四帝國大學を始とし、高等學校・高等商業學校・高等工業學校・高等工藝學校・醫學專門學校・高等農林學校・外國語學校・美術學校・音樂學校・商船學校・各府縣の師範學校・高等師範學校・農工商の實業學校・陸海軍の諸學校等、一として備はらざるはなし。

軍備

陸軍 二十九師團

東京・仙臺・名古屋・大阪・廣島・熊本・旭川・弘前・金澤・姫路・善通寺・小倉・高田・宇都宮・豊橋・京都・岡山・久留米。にの外に、東京に近衛師團あり。

海軍

五十萬噸百三十隻の艦艇あり。鎮守府 横須賀・吳・佐世保・舞鶴・鎮海。

字解

概説

急流

風光

秀で

延長

縦横

頻繁

立憲

内閣

裁判所

專門

技藝

師範

機關

常備軍

艦艇

邦家

地理 六學年終

尋常小學日本歷史表解

六學年用

普通學講習會著作

名高き人の死せし年									
楠木正成	楠木正行	新田義貞	楠木正行	足利尊氏	毛利元就	武田信玄	上杉謙信	織田信長	豊臣秀吉
三	三	三	三	五	五	五	四	四	六
一九九六	一九九六	一九九六	二〇〇六	二〇〇六	二〇〇六	二〇〇六	二〇〇六	二〇〇六	二〇〇六
徳川家康	中江藤樹	徳川光圀	貝原益軒	新井白石	大岡忠相	加茂真淵	本居宣長	伊能忠敬	
五	四	七	八	六	七	七	七	七	
二七六	二〇八	二六〇	二七四	二三五	二四二	二四九	二四六	二四七	
松平定信	頼山陽	二宮尊徳	井伊直弼	西郷隆盛	大久保利通	木戸孝允	岩倉具視	三條實美	
三	五	七	四	五	四	四	五	五	
二四八九	二四九二	二五〇六	二五二〇	二五三七	二五三六	二五三六	二五四三	二五五一	

○尋常歴史 六學年用

足 利

政治を整ふ

足利將軍アスカシヤウタン 尊氏タカウヂ 義詮ヨシアキラ 義滿ヨシミツ (三代目)。

尊氏タカウヂ 義詮ヨシアキラ の代

南朝の勢も、また、なかく盛なり。足利氏一族ならびに將士の内亂たえず。足利幕府の政も、また整ハはす。

南朝の將士多くは死し、勢おとろふ。細川頼之(ホソカハ) 力をつくして助く。將軍の命に従はざる諸將を誅す。

義滿の代

もろくの規則(キツ) を定む。

將軍の威勢(イセ) 大につよくなり、天下平々。

南北朝の合一(キ) 紀元二千〇五十二年。今より五百二十年前。

多年の兵亂(ヘイ) まつたく治る。

足利幕府はじめて整ふ。

義 滿

驕奢クウシヤ に流る

不法フハフ の行爲カウキ

威勢イセ の加るにしたがひ、次第に驕奢クウシヤ に流る。室町の邸宅アノヂ 壯麗サウレイ 月を驚かす世に花の御所ハナノゴシヨ とよぶ。將軍シヤウケン 職シヨク を義持ヨシモチ にゆづる一つひに太政大臣ダイサウダイジン となる。北山キサン に別莊ベツサウ を營む三層ソウゾウ の金閣キンカク は、今に残れり。世の人、北山殿キサンテン とよび、また公方コウヘ と稱す。

自分の行列ジブンノケツ を、上皇御幸ミコノミケノキヨク の御儀式ミケノキギシ にならふ。關白クワンパク 以下の公卿コウキョウ はもとより、皇族クワウゾク の御方ミコノカタ も従はしむ。費用(ヒヨ) たらす明國メイコク に通じて錢ゼン を得。大義分名(タイキブン) をみだる明主メイシュ より日本國王ニッポンコウ の稱を受く。

字 解

- 内亂ナイラン 相繼アヒツ 死殘シボツ 輔佐ホサ 威勢イセ 御和陸ミワリク 驕奢クウシヤ
- 壯麗サウレイ 邸宅アノヂ 以後イゴ 庭園テイエン 三層サンゾウ 稱號シヨウガウ 行爲カウキ

○尋常歴史 六學年用

應仁の

原因

幕府の権力衰ふ

尊氏利を以て將士を誘ひ、諸將の勢強大。内亂多く、幕府の威權の最も盛なりし義満、義持の時にさへ山名氏清、大内義弘叛けり。六代將軍義教、臣下のために殺さる。

將軍義政の失政

榮華に耽り、政治に心を用ひず。費用たらず、租税を重くす、人民苦しむ。

畠山 斯波

家督相續の争あり、細川氏獨り勢を得。

相續争ひ

將軍家

義視、細川勝元之を助く、細川、山名の義尚、山名宗全之を助く、勢力争ひ

畠山・斯波も各二つに分れて細川と山名とにより、其の他の諸將も、兩氏に分れ、天下兩分となる。

戦争

應仁元年(紀元二千百二十七年)東軍、西軍、宗全。戦争十一年、皇居・社寺・邸宅・寶物・記録など多く亡ぶ。宗全死す、勝元また死す、諸將、兵を引いて國へかへる。

亂

結果

花の都は燒野となる、右京の大半は燒けうせたり。義政は義視と和睦し、畠山政長管領となる。幕府の威權(サケ)全く地におち、威令行はれず。諸國の武士、幕府の命を用ひず、互に攻伐を事とす。つひに、永年の大亂を致すもとなす。

義政の失政

人民の困苦を思はず、驕奢にふける、東山に銀閣を造る。茶の湯などの遊びにふけり、政治をかへりみず。財政大に困難となる、つひに錢を明國に求む。皇室の御費用にさへ、ことかくにいたる。

字解

- 誘ひ 再興 原因 復漸く 穩 折柄 遊樂のしむた 重税
- 海内 輔け 家督相續 争亂 還俗 嗣 託せ
- 倚頼 對陣 戰端 燒野 寶物 記録 倦み
- 攻伐 永年 困苦 顧み 構へ 財政 困難 威令

○尋常歴史 六學年用

戰國時代

應仁の亂後百年ばかりの間。幕府の勢衰へ、天下統一する所なし。諸將攻戰を事とす。

鎌倉管領

基氏(尊氏の子)より子孫相ついで鎌倉に居る。

勢幕府をしのぐ。幕府と次第に疎遠になる。

兩上杉(山ノ内)を管領とし、自ら公方といふ。

關東地方

北條早雲

伊勢の浪士。駿河の今川氏に寄食(ヨク)す。關東の亂れたるに乘じ、頻りに領地をひろむ。小田原を根據(キョ)とし、關東の大半を占領す。子の氏綱、孫の氏康みな智勇。勢強大なり。

中部地方

武田信玄。甲斐の領主。信濃・駿河を取り、遠江に及ぶ。

上杉謙信。もと長尾氏。上杉氏を助けて家名を名のる。

二人ともに戰術に長じ、しばしば川中島に戰うて勝敗決せず。

戰國時代

代

今川義元(ヨシモト) 駿河に起る。

織田信長(ノブナガ) 尾張に起る。

中國地方 毛利元就

大江廣元の後、安藝に居り、大内氏の臣下。大内義隆、其の臣陶晴賢(タカエハ)に殺さる。元就、晴賢を滅して自立、領地十餘國。

四國地方 長曾我部元親(チヤウソウカ) 土佐にあり。

九州地方 島津義久(シマヅヨシヒサ) 薩摩にあり。大友義鎮(オホトモヨシツモ) 豊後にあり。

奥羽地方 伊達政宗(イダダマサムネ) 今の陸前にあり。織田・豊臣・徳川相つぎて起るに及び、或は滅され、或は従へられ終る。

字解

攻戰(コウセン) 戦をたかふ。 境土(キヤウド) 土もつて。 弱小(ジュウコウ) 小よわく。 競ひ(キツ) アヒツ。 相繼ぎ(アヒツ) アヒツ。 反抗(ハンコウ) ハンコウ。 會孫(クワイソン) ソウソン。 會孫(クワイソン) あたるもの。 士(シ) にらう。 奇食(キシヨク) かしらつて。 攻爭(コウサウ) コウサウ。 根據(コンキョ) コンキョ。 近傍(キンパウ) キンパウ。 大半(ダイハン) ダイハン。 肩を並べ(カダナラ) カダナラ。 隣(リン) リン。 國(コク) となり。 家名(カメイ) かしらつて。 授(サツ) サツ。 戰術(センジュツ) センジュツ。 會戰(クワイセン) クワイセン。 勝敗決せず(ソウバウケツ) ソウバウケツ。 甲越(カフエツ) カフエツ。 對立(タイリツ) タイリツ。 機(キ) キ。 擁して(ユウシテ) ユウシテ。 號令(ガウレイ) ガウレイ。 割據(カツキョ) カツキョ。

○尋常歴史 六學年用

威名天下に顯る

平重盛の後裔(三好)一斯波氏の臣下一尾張に居る。今川義元、三國の大兵を率ゐて攻め寄す。信長風雨に乘じ、桶狭間(ツケノ)にて一戦に之を斬る。威名天下に顯る一次に美濃を取り、岐阜に居る。

幕府の衰微

幕府の威令は、近畿の一部に及ぶのみ。細川氏衰へ、三好・松永等權を擅にす。

信長の奉公

朝廷の衰微

朝廷の御料地も、他の横領する所となる。幕府財政困難にて御費用を奉らず。大切なる御儀式(シキ)も行はせられず。子供等が、垣を越えて宮殿に入りて遊ぶ。

織田 信

近畿を定む

正親町天皇より興復の命を受く。足利義昭を助けて京都に入る。三好・松永を降して、義昭を將軍とす。皇居を修め、儀式を復興し、御料を奉る。

長

諸方を定む

足利氏滅ぶ 義昭、信長の威名を忌み、兵をあぐ。信長、義昭を追ふ一義昭、毛利元就による。足利幕府二百四十間にて全く滅ぶ。 德川家康之を助く。

本能寺の變

中國地方を定めんとす 秀吉を助けんとし、京都に入りて本能寺にやどる。秀吉を山陰・山陽にやる。毛利元就、大軍を以て來る。

字解

攻寄せ 風雨 襲ひ 顯る 威令 實權を握り 擅にし 群 雄 横領 窮乏 破損 修繕 御衰微 聞召す 興復 叡慮 朝儀 廢絶 舊觀 遺業

○尋常歴史 六學年用

吉秀臣豊

尾張國愛知郡中村の農家に生れ、木下藤吉郎と稱す。

戦功

信長に仕へ、賤役(セン)より次第に立身し、羽柴秀吉と名のる。
中国に向ふ 頻りに諸城を陥れ、備中の高松城に向ふ。

山崎合戦 急に毛利氏と和し、直に軍を引いてかへる。
織田信孝・柴田勝家・瀧川一益等、秀吉をねたむ。

諸將を滅す

賤ヶ岳(センガタケ)の戦—盛政破る。信孝殺され、一益は降り、勝家は越前にて自殺し、秀吉をねたむもの滅ぶ。

全國平定

長曾我部元親・島津義久降りて、四國九州平定し
北條氏政滅されて關東平定し、伊達政宗降りて
奥羽平定し、天下敵する者なし。百二十餘年の大

天下を握る

官位 太政大臣に任せられ、豊臣の家名を賜はる。
奉公 朝廷を尊び、京都を整へ、大に面目を改む。

朝鮮征伐

秀吉國威を海外に輝かさんとす—臺灣・フィリピンに使をや
る。明と好を修めんとす—明應せず。
道を朝鮮にかりて明を伐たんとす、朝鮮きかす。

第一回

まづ朝鮮より従へ、次に明を服せんとす。
我が十三萬の軍、殆朝鮮全國を風靡(フウ)す。
明の援兵(エイ)をも破る—和を許し、諸將かへる。

第二回

和議に行違(ガヒチ)あり、又、無禮のことをいひ來る。
再び兵を出す—まもなく秀吉の病死。
諸將かへる。前後七年外征の師終りをづく。

字解

- 賤役(セン) 賤ヶ岳(センガタケ) 敗死(ハイシ) 整理(セイリ) 外郭(ガイカク) 荒廢(クワウハイ) 面目(メンボク) 好を修め(ヨシミチサ) 來聘(ライヘイ) 邊民(ヘンミン)
- 誓はしめ(チカガヒ) 彼我(ヒカガ) 斷絶(マンゼツ) 發揚(ハツヤウ) 要求(ユウキウ) 先鋒(センポウ) 勇敢(ユウカン) 召還(セウワン) 行違(ギョウヅイ) 遺命(イメイ)
- 屢(シバク) 羽柴(ハシバ) 對陣(タイジン) 不可(フカ) 變報(ヘンポウ) 和睦(ワボク) 距る(サ) 遠方(エンバウ)
- 遺志(イシ) 鎮定(チンテイ) 打續(ウチツグ) 薨去(コウキョ) 後湯成(ゴヤルゼイ) 天皇(テンノウ) 尊崇(ソウソウ)

○尋常歴史 六學年用

徳川家

幼時 早く父を失ふ。六歳の時より義元のもとに人質(ヒト)となる。
出世 義元死してより自立し信長を助けて諸方を伐つ。領地を廣む。
秀吉と和睦 織田信雄を助けて秀吉の軍を破る。威名大に顯る。
北條征伐に大功あり。關東を得て江戸城に入る。

前田利家と共に秀頼を助く。利家間もなく死す。

政權家康

に歸す

關ヶ原の戦

戦

原因

家康の威勢ひとり盛となる。
石田三成等、豊臣氏のために心配す。
同志の諸將と計り家康を除かんとす。

結果

天下の形勢二つに分る。天下分目の戦。
小早川秀秋にはかに東軍に應ず。
西軍大に敗れ、三成以下多く殺さる。
家康大阪に入り、大に賞罰を行ふ。
要地に譜代を置き、外様を遠方におく。
天下の實權つひに徳川氏に歸す。

征夷大將軍に任せられ、幕府を江戸に開く(三百七年前)。

康

大阪の役

冬の陣

原因

秀吉の舊恩(カウ)を思ふ諸大名多し。
家康安心することあたはず。
方廣寺の鐘のことより難題をもちこむ。

戦争

大阪兵をあぐ、勇士多くあつまる。
東軍勝つことあたはず。和睦となる。

夏の陣

原因

家康ことさらに内堀をうづめしむ。
治長等事を用ひ、諸將の心一致せず。
秀頼等自殺し、豊臣氏二代にて滅ぶ。

政治 心を政治に用ひ、武家法度(ブツド)公家法度(ツグド)など規則を定む。
水戸・尾張・紀伊の三家を置く。學問を盛にし、太平の基を開く。

字解

器量 人質 辛苦 容易 恩顧 慶長 賞罰 削り 加増 服屬
轉換 疎遠 要地 親密 配置 従来 位置 威望 堅固 舊恩
自殺 元和 薨去 承け 統べ 法令 所爲 快から 翌年

○尋常歴史 六學年用

德川家光

德川三代將軍—家康の孫にて、秀忠の子。

内政

外様大名に對して憚る所なく、全く臣下として待遇(タイ)す。參勤交代(サンキン)の制を定む—諸大名の人質をとるなり。幕府の威權いよく盛になり、内政大に整ふ。

歐羅巴人來る

紀元二千二百年代の始、ポルトガル人始めて種子島に來りて鐵砲を傳へ、大に武人に觀迎(クワン)せらる。ポルトガル人・イスパニヤ人追々來り、貿易を營む。

基督教傳はる

南蠻人來るにつれ切支丹宗(基督教)を傳ふ。九州にひろまり、中國をへて京都にも傳はる。信長、京都に南蠻寺を建つるを許す。

秀吉、切支丹宗を禁じ、宣教師(ウツケ)を追ふ。

外交

家康の外交

切支丹宗を禁せしも、貿易を許せし故、外國との交通繁く、切支丹宗もやまず。

基督教を禁ず

家光の嚴禁

改宗せざるものは、多く殺さる。邦人の海外に出づることをも禁ず。

島原の亂

九州の信者(ジヤ)原城によりて亂を起す。九州諸大名の兵も、之を鎮定する能はず。老中松平信綱を遣し、やうく之を平ぐ。

鎖國

切支丹宗の禁制いよく嚴しく、宗門改を行ふ。邦人の海外に出づることも西洋人の我國に來ることも和蘭人と支那人のみ、長崎に來り貿易するを許す。禁ず—國を鎖す。

結果 我國人をして外國の事情にうとくならしむ。基督教を禁せんとする幕府の目的を達し得。世界の進歩におくれしむ。

字解

- 勢望 (セイバウ)
- 相違 (サイフ)
- 同輩 (ドウハイ)
- 待遇 (タイウ)
- 制度 (セイド)
- 邸宅 (テイタク)
- 交通貿易 (カウツウバウエキ)
- 歐羅巴人 (エウロッパジン)
- 利器 (リキ)
- 歡迎 (クワンイ)
- 渡來 (トライ)
- 基督教 (キリストケウ)
- 宣教師 (センケウシ)
- 布教 (フケウ)
- 保護 (ホゴ)
- 弊害 (ヘイガイ)
- 斷然 (ダンゼン)
- 方針 (フウシン)
- 一切 (イツク)
- 嚴禁 (ゲンキン)
- 禁絶 (キンゼツ)
- 改宗 (カイシュウ)
- 肯せざる (ケンセザル)
- 邦人 (ハウジン)
- 信者 (シンジャ)
- 禁制 (キンセイ)
- 嚴重 (ゲンジュウ)
- 鎖國 (サクコク)
- 政策 (サイサク)
- 傳播 (デンパン)
- 抑止 (ヨクシ)
- 目的 (モクテキ)

尋常歴史 六學年用

學問復興

戰國時代||武藝のみ重んぜられ、學問ふるはす。
家康の獎勵 藤原惺窩(クワイ)・林羅山(ラザ)を招き儒學を盛にす。
學問やうく盛になり、諸大名も之にならふ。
徳川光圀||國史・國文の研究。大日本史をつくる。

網吉の獎勵 孔子の廟を湯島にたつ。
自ら書を講じて人々に聞かすむ。
名高き學者||中江藤樹・伊藤仁齋・荻生徂徠。

徳川綱吉

綱吉の弊政

政事に倦み、柳澤吉保(ヨシヤス)權をほしいままにす。
子なきため、僧の言を信じ、犬を保護し、人民大に苦む。
遊樂にふけり、財政困難となり、惡錢(セウケン)をつくる。

元祿時代

太平久しくつゞき、人々やうやく武事をわする。
幕府の政治につれて、頗る華美の風俗となり、奢侈に傾く。

赤穂の義士

淺野長矩・吉良義英を傷けて、切腹申付らる。
大石良雄(オホイシ)等四十七士義英を殺し仇を報ず(元祿十五年)。

新井白石

六代將軍家宣より家繼・吉宗の三代に仕へ、幣政を改むること多し。
和漢の學に深く、西洋の事情に通じ、政治の才あり—順庵の門人。

親王家を定む

皇太子の外、諸皇子の出家し給ふ例をやむ。
伏見宮(フジミ)・有栖川宮(アリスガ) 四親王家を定む。
京極宮(キョクゴ)・閑院宮(カンイン)

朝鮮の使待遇法を改む

將軍交代ごとに慶賀(ケイ)に来る。
待遇厚きに過ぎ、我國の體面を損ず。
對馬にて應對(オウ)すること改む。

財政を整ふ||前代の惡錢を鑄直す。金銀の多く外國に出づるを防ぐ。

字解

僧侶 命脈 羅山 光圀 研究 大著述 廟 藤樹 仁齋 倦み
保護 改鑄 窮乏 案れ 打續 華美 奢侈 現出 元祿時代 弊
政 和漢 出家 先例 建議 閑院宮家 創立 使者 待遇法
慶賀 體面 適當 程度 粗惡 制限

○尋常歴史 六學年用

人となり

家康の曾孫—御三家の一なる紀伊家より入る。
賢明(ケンメイ)にして政治の才に富む。徳川幕府中興の英主。
實用を尙びて、虚飾(ヨクシ)を避くること。
質素(シツソ)をすゝめて、華奢(シヤ)をいましむること。

政治の要

元祿時代の餘弊(イヘ)を受けて、一般に奢侈に流る。

儉約をつとむ

儉約の模範を示す
居間の裝飾(サウジ)をやむ。
そまつなる食物をしのぶ。
大名以下の奢りをいましむ。
大に幕府の財政をゆたかにす。

武事をはげます

砲術・弓術・水泳術(スイユウ)などをはげます。
獵をなして、武事を練習(レンシ)せしむ。
つとめて士氣の柔弱(ジュウジ)なるを矯(カ)めんとなす。

學問を奨む

洋書を読むの禁をゆるめ、學問を奨勵す。
曆學(レキ)・算術・醫學(イガ)其の他の學問おこる。

徳川吉

宗

刑罰

多く人材を登用す。室鳩巢(ムロノキ)を顧問(コンモ)となす。
大岡忠相(オホオカ)を江戸町奉行となす—裁判(サイ)公平なり。
目安箱(メヤス)を設けて、自由に訴へしむ。
御定書(オサダ)百箇條を定め、裁判の標準(ヘウジ)を知らしむ。
人民に規則(キツ)を知らしむることにつとむ。

産業

荒地(チアレ)を開き、水利を通す。
砂糖の製造・甘藷(カンショ)の栽培(サイ)を奨勵す。
諸大名これに倣ひ、諸國に物産多く起る。
大に外國品の輸入をふせぐことを得たり。

曾孫

世嗣

襲ぎ

賢明

努めて

善政

中興の英主

虚

字解

洋書

緩め

人才

登用

剛直

大綱

有司

標準

○尋常歴史 六學年用

幕府の政系ミツる

吉宗の中興、其の後しばらくは天下太平。

十一代家治イハルの時代ジダイ

田沼意次・意知父子ホシヒマ権を恣マにす。

賄賂大に行はれ、政治正しからず。

暴風・洪水・飢饉など天災多し。

貧民騷擾し、江戸市中をも騷サハがす。

十一代家齊、松平定信を老中とす。

定信、吉宗の政治にならひて大に改革す。

人材を登用し、質素儉約を主とし、奢侈遊惰を戒

め、學問武藝を奨励す。

ロシアの船、しばらく北海道に来る。

定信、海防に意を用ひ、海岸を巡視(ジユ)す。

王尊ノ

幕政の改革カイカク

寛政の治ヂ

天保の改革カイカク

十二代家慶イハヨシの時、水野忠邦の改革カイカク。

定信に倣ひ、節儉の奨励・風俗の改善カイゼン。

あまり嚴ゲンにすぎて、つひに失敗シツパイとなる。

家齊在職五十餘年、海内太平、表面は華美クワビ。

内實は政治は、形式のみで、活氣クワツキにとぼし。

内には、尊王排幕の思想漸く加はる。

外には、外國との關係しだいに複雑フクザツとなる。

幕府衰頹の兆オホやうくあらはる。

(一) 論ロ

幕府衰頹の兆オホ

尋常歴史 六學年用

朝廷と幕府との關係

我が大日本帝國は、萬世一系の天皇の親政を法とす。藤原氏權を擅にしてより、武將政治の變態(ヘン)を生ず。幕府政治は年久しく、人民之になれて疑はず。中には、將軍あるを知るも、皇室の尊嚴を知らざる者あり。

光圀の大日本史

我が國體を知り、皇室の尊嚴を解す。幕府の政治が不道理(フダ)なるを知る。

尊王論の率先者

竹内式部 山縣大貳 幕府のために罪せらる。

國學勃興

網吉時代に僧契沖が古文を研究せしに起る。加茂真淵、其の門人本居宣長など出づ。その門人等も、盛に國體・皇室のことを説く。その影響 國體のすぐれたる事を明にす。皇室の尊嚴なる理由を知らしむ。

尊王論

尊王論起る

(二)

慷慨家出づ

寛政の三奇士

蒲生君平 山陵のすたれたるを憤る。高山彦九郎 皇室の御衰微をなげく。林子平 海防の急務を論ず。尊王の論、ますますやかましくなる。

薨去

引續き

執政の臣

賄賂公に行はれ

暴風

洪水

天災

飢饉

貧民

暴民

蜂起

賢明

老中

弊政

名望

質素

儉約

奢侈

遊惰

復舉れり

寛政

露西亞

海防

排幕

巡視

稍弛み

改善

失敗

天保

改革

在職

華美

勃興

契沖

優秀

憤慨

山陵

巡遊

夙に

外患

急務

字解

○尋常歴史 六學年用

と 來 渡 の 艦 外

攘夷論起る

鎖國の結果

外國船來る

二十四

國民は世界の事情(ヤツ)を知らず。少數の蘭學者のみ外國の事情に通ず。

汽船の發明ありて、航海たやすくなる。外國船の東洋に來るもの日に多し。

幕府は鎖國を守りて、通商を許さず。ロシアの船北海道をさわがす。

イギリスの船長崎をさわがす。攘夷の論やうやくやかましくなる。

外國船打はらひの命を下し海防を嚴にす。

孝明天皇の嘉永六年(五十七年前)六月三日。

亞米利加合衆國の使節ペルリ、船艦四隻を率ゐ來る。

返答を明年に延期す。事の由を朝廷に奏す。

衆説區々、幕府の方針決せざる内にペルリ再び來る。諸大名に意見をのべしむ。

和親條約をむすぶ

下田・函館を開き、薪水・糧食など缺乏品を給するを約す。

英吉利・露西亞・和蘭の三國とも同じ條約を結ぶ。

なほ通商は許さず一次に海防を嚴にす。

安政三年合衆國の使節ハルリス來る。

世界の形勢をとき、鎖國の不可を論じ、通商を請ふ。

幕府朝廷に奏して勅許(キヨク)を請ふ。許されず。

大老井伊直弼、勅許をまたずして條約を結ぶ(五十二年前)。

通商條約をむすぶ

五箇國條約

和蘭 露西亞 英吉利 佛蘭西

開港場は

神奈川 兵庫 長崎 新潟

○浮世歴史 六學年用

二十五

攘夷論

櫻田門
外の變

攘夷の議

通商條約を結びしを以て、井伊直弼の罪を鳴す者多し。
將軍繼嗣の件
家定の繼嗣に、慶喜と家茂の兩説あり。
直弼異議を排して家茂を迎ふ。
直弼の所爲を非難するもの益々多し。

安政の大獄

直弼、反對者(ハシヤ)を壓伏(マク)せんとす。
水戸齊昭以下、多くの志士を處罰(バツ)す。

萬延元年三月三日雪中登城の際、水戸の浪士に殺さる。

攘夷論者京都に集る―朝議攘夷に決す。

將軍家茂命を奉じて京に入る―攘夷を五月十日(三月)とす。

攘夷の實行―長州藩、下關海峡にて外國船をうつ。

長州藩の議により攘夷親征の事に決す。

朝議俄に一變し、長州藩退けらる。

攘夷論の公卿退けられ、七卿長州に走る。

長州征伐

第一回

長州藩宛(ニ)を訴ふると稱し、兵を率ゐて入京す。
會津・薩摩の兵、これを撃退(グキ)す。

幕府の軍長州に向ふ。長州藩主罪を謝す。

長州藩士高杉晋作(タカスキ)等、兵を擧ぐ。

幕府の軍常に破る―幕府の威勢大に衰ふ。

將軍家茂薨す―次で孝明天皇崩御(ホウヨ)。

朝廷の命により、長州征伐の軍をやむ。

第二回

蘭學者

事情

昔日

舊法

掠め

攘夷

嘉永

亞米利加

合衆國

使節

處置

返答

衆說區區

方針

安政

薪水

糧食

缺乏品

英吉利

露西亞

和蘭

和親條約

總領事

促す

勅許

奏請

憂慮

切迫

猶豫

繼嗣

異議を排し

衆望

反對者

處置

通過

手始

蓋

警衛

主張

冤

擊退

字解

○尋常歴史 六學年用

大政奉還

幕府

長州征伐の軍、常に利あらず。
幕府の權威衰ふ—大名幕府をあなどる。
冢茂薨去—慶喜つぐ。

朝廷

朝廷より、長州征伐の軍をやめしめらる。
孝明天皇崩御—今上天皇御即位。御年十六。
全國、攘夷論やうやくやむ。

山内豊信(土佐藩主)
大久保利通(薩摩藩士)

政權奉還を將軍にすまむ。

幕府倒る

慶喜、政權を奉還す(慶應三年十月)。
賴朝幕府を開きしより六百七十六年。
家康幕府を開きしより十五代二百六十五年。

明治の新政

總裁||有栖川宮熾仁親王。

議定

三條實美・岩倉具視・島津久光・毛利元徳。
山内豊信、その他。

參與

西郷隆盛・大久保利通・木戸孝允。
後藤象二郎・大隈重信、その他。

慶喜、新政にあづからず—舊臣等の不平。

慶喜、大兵を率ゐて京都に向ふ—薩摩藩を惡む。

鳥羽伏見の戦

薩摩・長門・安藝の兵これをしりぞく。
征討大將軍||小松宮彰仁親王。慶喜を討たしめらる。

慶喜、船にのりて江戸に走る。

東征大總督||熾仁親王—參謀||西郷隆盛。

慶喜追討

慶喜、恭順の意を表し、勝安芳を使として罪を謝す。
江戸城・軍艦・銃砲ををさむ。慶喜を水戸に幽す。

○尋常歴史 六學年用

大政奉還と明

諸地方追討

幕府の舊臣等諸方に兵をあぐ。

彰義隊

上野の東叡山による(將軍の廟所)。北白川宮能久親王を奉ず。一日にして敗走す。

奥羽の戦

松平容保、會津による。奥羽二十三藩の同盟。會津城おちいる。奥羽平定。大鳥圭介北海道にのがる。

函館の戦

總裁||榎本武揚。陸軍||大鳥圭介。海軍||荒井郁之助。軍艦五艘||函館、五稜廓による。武揚等降服。

全國平定||明治二年五月。

五ヶ條の御誓文(モクセイ)||明治政治の大方針(元年三月)。御即位||慶應四年||明治元年。

諸種の改革

遷都||江戸を東京と改め、皇居の地と定めらる。

諸藩主の領土奉還

薩・長・土・肥の上表、諸藩之に倣ふ。諸藩主を藩知事(ハン)とす(明治二年)。

藩を廢し縣を置く

四年七月藩を廢して縣を置く。縣令を布く||三府七十二縣とす。縣知事を任命し、郡縣の制整ふ。

徴兵令發布||明治六年||全國皆兵||兵農の區別すたる。

字解

慶應	慶應	大喪	墮ち	建議	勸告	斷然	嘉納	援擢	庶政
旗	旗	東征	大總督	參謀	恭順	復古	盛典	順逆	組
織	廟所	抵抗	五稜廓	維新	神祇	萬機公論	經綸	官武一途	
庶民	陋習	智識	振起	基礎	確立	連署上表	知藩事	任命	
完成	勳功	徴兵令	發布	全國皆兵	區別				

○尋常歴史 六學年用

臺灣征伐と西南の役

外交

〔全權大使の派遣〕岩倉具視・木戸孝允・大久保利通等。
 〔歐米諸國を巡り、文明の有様を視察（ツサ）す。〕
 清國との條約 我が國より外國を促し、條約を結べる始。

臺灣征伐

〔原因〕臺灣の蕃人、我が漂流民（ハシリ）を殺害（ケツ）す。
 〔清國へ談判す、化外の民なりとてかへりみず。〕
 征討軍 西郷従道をやる（七年四月）—忽ちに蕃人（ツシ）を服す。
 〔結果〕清國異議（ギ）を申込む—大久保利通をやりて談判。
 〔清國より償金五十萬兩を出さしめて事すむ。〕

征韓論

〔原因〕新政を朝鮮に告げ、修好を勸む。
 〔排外思想（ハイヤクワ）盛にて、我が言を斥け、無禮のことあり。〕
 征韓論者 西郷隆盛・後藤象二郎・板垣退助・江藤新平等。
 反對論者 岩倉具視等全權大使の一行—内治の急を説く。
 征韓論破る 隆盛以下征韓論者一同職を退く（六年十月）。
 〔新政日幾く、幕政を思ふ者もあり、人心大に動く。〕

征韓論の餘波

佐賀の亂 明治七年一月江藤新平亂を起す。
 熊本の亂 九年十月、大野鐵平等の亂、神風連といふ。
 萩の亂 前原一誠（ハセベ）等、神風連に應せんとす。
 〔隆盛、鹿兒島に私學校をたつ。〕
 〔十年二月私學校の徒、隆盛を擁して立つ。〕
 〔熊本城をかこむ—谷干城等よく防ぐ。〕
 〔征討軍 熾仁親王・山縣有朋・川村純義。〕
 〔九月鹿兒島城山陥り、隆盛以下自殺す。〕
 〔憲法發布の日賊名を除き、正三位を賜ふ。〕

西南の役

字解

斷然	和親	派遣	歐米諸國	締結	日清	日本と	紛議	漂流	蕃人
化外	被害	異議	談判	償金	事局	王政維新	排外思想	勸告	
親密	好意	視察	歸朝	袂を連ね	追懷	誤解	動搖	鎮定	養
成	施設	鎮臺司令長官	轉戰	憲法發布					

○尋常歴史 六學年用

憲法

立憲政治の準備

三十四

五ヶ條御誓文ニ衆議により政治をなす基を開かせらる

第一條ニ廣ク會議ヲオコシ萬機公論ニ決スベシ。

議院設立の請願―後藤象二郎・板垣退助・江藤新平等。

自由民權の説大に起る―國會開設の請願ニ八萬人。

元老院、大審院を設く(明治八年)。

地方官會議

府 縣 會 公議輿論を採用するの道を開く。

町 村 會

明治二十三年を期し國會開設の詔下る(十四年)。

各國憲法の調査―日本憲法の編成―伊藤博文。

發 布

立憲政体の成立

帝國憲法の發布(明治廿二年二月十一日)。

國家の根本たるべき大法。

憲法 上天皇より、下國民に至るまで、ともに従ひ守るべき所を定む。一切の政治法律の基。

帝國議會開會 議 會 (貴族院) 衆議院 第一回―二十三年十二月。

東洋唯一の立憲國となる。

御誓文 衆議 民選議院 漸進 元老院 地方官會議・公議輿論

採用 發達 開設 憲法 調査 參考 制定 發布 歡呼 朕 條

章 循ヒ 愆ラサル 權利 貴重 範圍内 享有 宣言 一般 遵ヒ

貴族 議員 召集 親臨 經始 綱領 庶幾クハ 啓キ 光烈 聖旨

字 解

○尋常歴史 六學年用

三十五

明治

江華島事件

我が軍艦砲撃せらる。我が兵砲臺を陥る。朝鮮謝罪(サイヤ)―修好條約を結ぶ。

三十六

明治十五年の變

朝鮮の兵士、日本公使館を焼く。朝鮮謝罪―償金五十萬圓を出す。

朝鮮の二派

獨立黨(ドクリツダウ) 改革派(カイカクハ) 日本による。事大黨(ジダイダウ) 保守派(ホシユハ) 清國による。

明治十七年の變

事大黨の亂暴(ランバウ) 我兵を攻撃し、公使館を焼く。獨立黨のもの多く我國にのがる。清國の兵これを助く。

結果

朝鮮の謝罪―償金を出して事すむ。天津條約(テンシンヂョウヤク) 日本と清國との談判。朝鮮へ出兵の事を約す。

朝鮮東學黨の蜂起―朝鮮政府之を鎮むる能はず。清國の出兵―朝鮮を取らんとする野心(ヤシン)あり。

原因 日本も亦公使館・居留民保護のため兵を出す。

豊島沖の海戦(七月廿五日)、成歡(セイクワン)・牙山(カサン)の陸戦。清兵を破る。

宣戰の詔勅降る(八月一日)。

平壤の戰。黄海大海戰。大本營を廣島に進め給ふ。

旅順口、威海衛の占領―北洋艦隊降伏。

遼東半島―臺灣―澎湖島の占領。

我軍連戰連勝―向ふ所敵なし―一度も敗けたることなし。

日本の談判委員

伊藤博文 陸奥宗光

談判地―馬關。

清國の談判委員

李鴻章 李經芳

明治二十八年四月十七日、馬關條約成立つ。

二 七 八 年 戰 役

戰 争

と 條 約 改 正

結 果

講

和

條 約

朝鮮の獨立を認む。
遼東半島、臺灣、澎湖島をゆづる。
償金二億兩を出す。

三十八

遼東半島還附

露西亞・獨逸・佛蘭西の干渉。
遼東半島の還附を申込み。
我が政府已むを得ずして還す。
代償として三千萬兩を取る。

臺灣平定

劉永福等の反抗。
近衛師團の討伐一師團長北白川宮能久親王。
全土平定。能久親王の薨去ニ臺灣神社。

我國のねうちを、世界に知らしめたり。

條約改正

舊條約

安政五年徳川幕府の結びたるもの。
治外法權など、我が國に不利益のこと多し。

改 正

維新以來の大事業にて、しばしば失敗(ハツ)す。
憲法發布・法律完成・戦勝の威光などにより、諸外國
も相ついで同意し、つひに改正なる。

實施ニ三十二年七月。ほとんど歐米諸國と對等となる。

字 解

提議	拒み	江華島	守兵	不意	砲撃	公使館	赴任	暴徒	獨
立 事	黨派	保守	駐屯	難問題	解決	變亂	虞	李鴻章	
天津	爾來	誅求	屬國	豐島沖	戰端	應戰	成歡	宣戰	連戰
連敗	内閣總理	全權辨理	永遠	還附	代償	創設	調印	治外	
法權	熱心	實施	宿望	撤去	關稅權	對等			

○尋常歴史 六學年用

三十九

明治三十七八年戰役

北清事變

日英同盟

日露の交渉

四十

原因

明治廿七八年戰役後、西洋の諸強國は、清國に逼りて種々の權利を得、清國人の嫌忌(キケン)を受く。

事變

三十二年義和團起り、基督教會堂・宣教師を襲ふ。三十二年には官兵も加はり、各國公使館をかこむ。我が公使館員・獨逸公使を殺す。我が軍を中堅とし、各國聯合軍(アングロ)を組織(キツ)す。三十三年八月北京を陥れ、清帝のがれ去る。

結末

償金四億五千萬兩を出し、暴徒を罰す。我が國と獨逸とに謝罪使(イシヤザ)を出す。

日本軍の名譽、武勇・規律嚴肅(キリツク)・功績ことに多し。東洋の平和についての同盟、三十五年一月。

條約

清・韓兩國の領土を保全(ホセ)すること。他の二國以上が連合して、東洋にて日本又は英國と開戦する場合には、兩國は相共に之に當ること。

北清事變の際、露西亞は滿洲を占領す。事變後も之を還さず、韓國をも威壓(ツア)せんとなす。旅順口を軍港とし、盛に防備(バウ)をほどこす。東清鐵道をしき、軍隊糧食の輸送(ユツ)に便にす。日英同盟條約を無視(シ)し、我が談判の返答せず、頻りに兵を増加し、遂には我が國をも威壓せんとなす。我が政府、談判益なきを覺り、國交斷絶(コクカウ)を通知す。

滿洲軍

- 第一軍 黒木大將
- 第二軍 奧大將
- 第三軍 乃木大將
- 第四軍 野津大將
- 第五軍 川村大將
- 總司令官 大山大將

海軍

- 上村艦隊・片岡艦隊・瓜生艦隊・出羽艦隊。
- 總司令官 東郷大將。

戦争の始 仁川・旅順口の海戦(三十七年二月九日)。
宣戦の大詔下る 三十七年二月十日。

旅順口の閉塞

第一回 二月二十四日。
第二回 三月二十七日。
第三回 五月三日。

鴨綠江の戦 五月一日、九連城を占領す。

吉野・初瀬・八島の三艦水雷にふれて沈没す 五月十五日。

金州南山の占領 五月二十五日。

得利寺(リジ)の大会戦 六月十五日 我が軍大勝利。

大石橋(ダイセ)の大会戦 七月二十五日。

遼陽の占領 八月二十五日より九月二十四日に至る。

沙河(ガシヤ)の大会戦 十月九日より十五日に至る。

バルチック艦隊の出発 十月十四日。

乃木大將の第三軍これに向ふ。

七月二十二日より攻撃の準備(ジユ)す。

戦局の経過

旅順口占領

黄海大海戦 八月十日。

總攻撃 八月より十一月迄四回。

二〇三高地占領 十一月三十日。

降伏 三十八年一月二日、虜(ホリ)二萬人。

未曾有の大戦 奉天占領 二月下旬より三月十日迄。
日本海々戦 五月廿七日・廿八日。

樺太軍 原口中將の一軍—コルサコフ(大泊)占領。

字解

租借	敷設	忌嫌	毀ち	北京	殺害	聯合	中堅	謝罪使
功績	發揚	滿洲	威壓	安危	保全	維持	所見	英國
連合	延引	到底	交渉	誠意	繼續	斷絶	聯合艦隊	壓迫
閉塞	擊破	浦鹽	斯德艦隊	掌握	驅逐	奮戰	難攻不落	要塞
虜	攻圍軍	捕虜	激戰	捕獲	全滅	困苦	勇戰奮闘	

尋常歴史 六學年用

平和と復克の戦

平和條約

北米合衆國大統領(タイトウ)ルーズベルトの勸告(コウゴ)。
場所||米國のポーツマス。
講和談判
全權委員 日本||小村壽太郎・高平小五郎
露國||ウキツテ・ローゼン。
三十八年八月九日に始り、九月五日終る。

日本の得たる所

〔韓國保護の權利。樺太の南部。滿洲の租借地。長春以南の鐵道。〕

樺太・租借地の經營

樺太廳・關東州都督府(ウツトクフ)を置き、政務を整ふ。旅順口の海防を修め、鐵道・鑛山の經營をなさしむ。

韓國保護

戰爭後、我が保護國とし、伊藤博文を統監(カシ)とす。四十年七月更に協約を重ね、大に統監の權限を擴張す。

清國の領土保全

戰時中占領したる滿洲の地を還す―露國も兵を引く。清國は、はじめて自ら政令を滿洲に布くを得るに至る。

後の經營

平和の確保(ホク)

日英同盟の擴張||三十八年八月改正、攻守同盟とす。

協約 〔佛蘭西・露西亞(二回)。北米合衆國。〕
みな東洋の平和を維持することを約束せり。

我が國は、世界の一等國となり、東洋平和の盟主となる。

韓國併合

〔韓國民中には、我が意を解せざるものも少からず。兩國の幸福と、平和確保のため、併合の必要あり。〕
四十三年八月併合條約成立し、韓國を改め朝鮮とす。

字解

コソ	アヒケイ	クワンコ	キヤウタン	ダイトウリヤウ	カウワ	クワンコク	ゼンケン	キヤウ
擧りて	相慶し	歡呼	驚歎	大統領	講和	勸告	全權委員	
タイケツ	ダクゼツ	シヨウニン	サ	ソシヤクケン	ケイエイ	チヤクシユ	カントク	セツリツ
締結	卓絶	承認	割き	租借權	經營	着手	監督	設立
トウカンフ	スウミツ	キヤウヤウ	クワク	チヤウ	クワンフ	サツペイ	シンゼン	タイヤク
統監府	樞密院議長	擴張	還付	撤兵	親善	締約	攻守相援	
カクワン	オウベ	オウベ	シンカウ	クワラン	エンゲン	サウゴ	カクホ	ヘイガフ
交換	歐米	西洋とあめ	親交	禍亂	淵源	相互	確保	併合
シヨウダク	ゼンジ	センヤウ	ハツキ	サウグウ	クワウキ			ジヤウ
承諾	漸次	宣揚	發揮	遭遇	光輝			讓與

○尋常歴史 六學年用

明治年表

元	四	七	十	十	二	二	三	三	三	三	四	四
年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年

鳥羽伏見の戦い慶喜追討。五ヶ條の誓文を下し給ふ。
 藩を廢して縣を置く。岩倉具視等西洋に行く。
 臺灣征伐の軍をやる。佐賀の亂あり。
 西南の亂おこる。
 國會開設の詔勅を降し給ふ。
 官制を改め、内閣、各省を置く。
 帝國憲法を發布せらる。
 はじめて帝國議會を開かる。
 清國との戦始る(七月)。イギリスとの條約改正なる。
 清國との平和條約(馬關條約)なる(四月)
 改正條約を實施せらる。
 北清事變おこる。
 イギリスと同盟條約なる。
 二月ロシアとの戦争はじまる。
 ロシアとの平和條約。日英同盟の改正。日韓條約。
 韓國との協約(ヤフ)改正、まづたく保護國とす。
 韓國を我が國に併合し、名を朝鮮と改む。

明治四十四年二月十五日印刷

明治四十四年二月二十日發行

定價金八錢

著作者 普通學講習會

發行者 大塚 宇三郎

發兌元 田中 宋榮堂

印刷者 山田 元吉



大阪市南區安堂寺橋通二丁目二十六番屋敷

大阪市南區心齋橋通安堂寺町南入

普通學講習會著作

尋常高等綴方教科書

尋常科 三學年用 四學年用
高等科 五學年用 六學年用
定價各拾錢 郵送料各四錢

太郎「綴方は、なか／＼むつかしいものですが、どうしたらじやうずになれ
るでせうか？」

次郎「それは、できるだけ、たくさんにつくることと、たくさんによむこと
とださうです！」

太郎「さうですか、それでは、どんな本をよんだらよいでせう？」

次郎「それは、大阪の田中宋榮堂から發行してゐる綴方教科書といふ本が一
ばんよいとこのあひだ先生がおつやいました！」

太郎「大きにありがたう、それでは、すぐにかひませう！」

普通學講習會著作

尋常高等八學科表解

尋常科 (前期用) 第五年用 第六年用
(後期用) 第五年用 第六年用
高等科 (前期用) 第一、二年用
(後期用) 第一、二年用
定價各金拾貳錢 郵送料各四錢

●八學科表解とは修身、國語(讀方、書方、綴方)、地理、歴史、算術、理科、圖
畫、体操をもつとも分りやすく、解しやすき様に表解したものである。●何
の必要があるか……教場で教へて貰つた智識をまとめること、少い時間と
少い力とで、しつかりとした智識にするため、復習の便利のために、かなら
ず、なくてはならぬ便利な有益な本である。●これまで、ありふれた表解類
進歩したものである。表解のしかたが巧なは勿論殊に、修身、

歴史、算術には、一課ごとに字解をつけ、又地理には、各府
所舊跡の寫眞板を入れ、理科、圖畫、体操にも、多くの圖畫を
明し、もつとも新しい材料でしらべてある。



小學校兒童用參考書類

小學地理問答 日本之部全一册 定價拾錢郵稅四錢

小學地理問答 外國之部全一册 定價拾錢郵稅四錢

小學地理問答 高等二年用全一册 定價拾錢郵稅四錢

日本歷史問答 尋常科用全一册 定價拾錢郵稅四錢

日本歷史問答 高等科用全一册 定價拾錢郵稅四錢

算術問答 五年六年用全二册 價各拾錢郵各四錢

算術問答 一年二年用全二册 價各拾錢郵各四錢

小學農業問答 高等二年用全二册 價各拾錢郵各四錢

小學理科問答 尋常五六年用二册 價各拾錢郵各四錢

小學理科問答 高等一二年用二册 價各拾錢郵各四錢

小日本歷史附圖 尋常高等共用一册 價拾五錢郵稅四錢

小學綴方教科書 三四五六年用四册 價各拾錢郵各四錢

小學綴方教科書 一年二年用全二册 價各拾錢郵各四錢

小學珠算書 尋常科用 四五六年用全二册 價各八錢郵各貳錢

小學珠算書 高等科用 一年二年用全二册 價各八錢郵各貳錢

小學水彩畫手本 附畫法心得全一册 價貳拾錢郵稅四錢

發行元

大阪市南區心齋橋
通安堂寺町前八入

田中榮堂

實業所全圖
各地書局店